



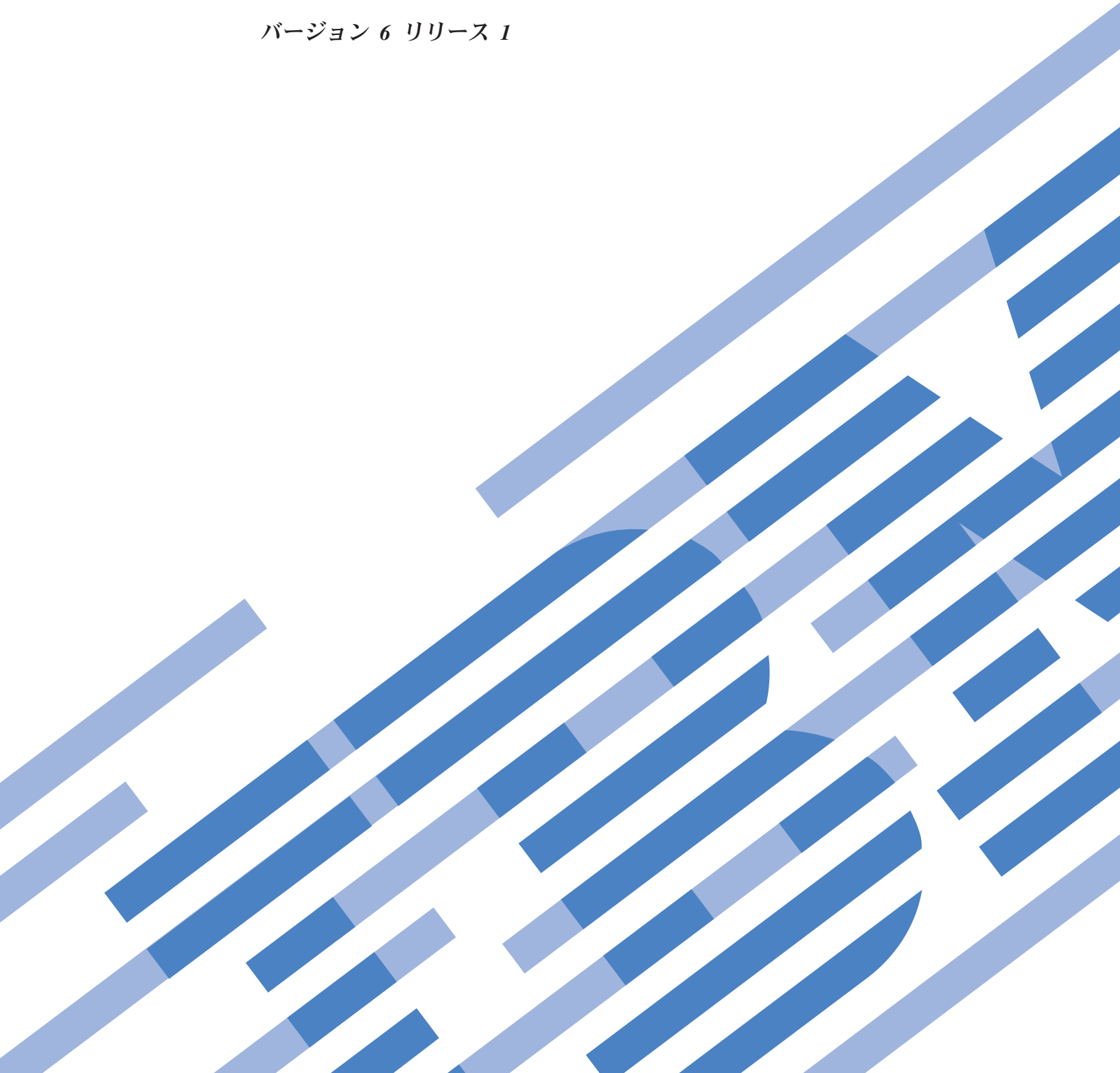
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

DLTCMNTRC (通信トレース削除)

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

DLTCMNTRC (通信トレース削除)

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、329 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with DLTCMNTRC (Delete Communications Trace)
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

通信トレースの削除 (DLTCMNTRC)	1
パラメーター	1
構成オブジェクト (CFGOBJ)	1
タイプ (CFGTYPE)	1
例	2
エラー・メッセージ	2
接続リストの削除 (DLTCNNL)	3
パラメーター	3
接続リスト (CNNL)	3
例	3
エラー・メッセージ	4
サービス・クラス記述削除 (DLTCOSD)	5
パラメーター	5
サービス・クラス記述 (COSD)	5
例	5
エラー・メッセージ	5
クラスター資源グループの削除 (DLTCRG)	7
パラメーター	7
クラスター資源グループ (CRG)	7
例	8
エラー・メッセージ	8
CRQ記述の削除 (DLTCRQD)	11
パラメーター	11
要求記述の変更 (CRQD)	11
例	12
エラー・メッセージ	13
通信サイド情報の削除 (DLTCSI)	15
パラメーター	15
サイド情報 (CSI)	15
例	16
エラー・メッセージ	16
制御装置記述の削除 (DLTCTLD)	17
パラメーター	17
制御装置記述 (CTLD)	17
例	17
エラー・メッセージ	18
装置記述の削除 (DLTDEVD)	19
パラメーター	19
装置記述 (DEVD)	19
例	19
エラー・メッセージ	20

装置媒体ライブラリーの削除 (DLTDEVMLB)	21
パラメーター	21
装置記述 (DEVLD)	21
例	21
エラー・メッセージ	21
DFUプログラムの削除 (DLTDFUPGM)	23
エラー・メッセージ: DLTDFUPGM	23
パラメーター	23
DFUプログラム (DFUPGM)	23
例	23
エラー・メッセージ	23
文書ライブラリー・オブジェクト削除 (DLTDLO)	25
パラメーター	25
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	26
フォルダー中 (FLR)	27
作成期 (CRTDATE)	27
満了日 (CHKEXP)	28
文書クラス (DOCCLS)	28
所有者プロファイル (OWNER)	29
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	29
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	29
補助記憶域プールID (ASP)	30
例	30
エラー・メッセージ	31
文書リスト削除 (DLTDOCL)	33
パラメーター	33
文書リスト (DOCL)	33
文書リスト所有者 (OWNER)	33
例	34
エラー・メッセージ	34
配布削除 (DLTDST)	37
パラメーター	37
配布ID (DSTID)	38
着信または発信 (OPTION)	38
ユーザー識別コード (USRID)	38
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	39
オブジェクト (OBJ)	39
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	40
例	40
エラー・メッセージ	41
配布リスト削除 (DLTDSTL)	43
パラメーター	43
リスト識別コード (LSTID)	43

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	44
例	44
エラー・メッセージ	45
データ域削除 (DLDTAARA)	47
パラメーター	47
データ域 (DTAARA)	47
例	48
エラー・メッセージ	49
データ・ディクショナリー削除 (DLTDADCT)	51
パラメーター	51
データ・ディクショナリー (DTADCT)	51
例	51
エラー・メッセージ	51
データ待ち行列削除 (DLDTAQ)	53
パラメーター	53
データ待ち行列名 (DTAQ)	53
例	54
エラー・メッセージ	54
編集記述削除 (DLTEDTD)	57
パラメーター	57
編集記述 (EDTD)	57
例	58
エラー・メッセージ	58
満了スプール・ファイルの削除 (DLTEXPSPLF)	59
パラメーター	59
ASPグループ (ASPGRP)	59
例	60
エラー・メッセージ	60
ファイル削除 (DLTF)	61
パラメーター	62
ファイル (FILE)	62
システム (SYSTEM)	63
制約の除去 (RMVCST)	63
例	64
エラー・メッセージ	64
フォント資源の削除 (DLTFNTRSC)	67
パラメーター	67
フォント資源 (FNTRSC)	67
例	68
エラー・メッセージ	69
フォント・テーブルの削除 (DLTFNTTBL)	71
パラメーター	71
フォント・テーブル (FNNTTBL)	71
例	72
エラー・メッセージ	72

書式定義の削除 (DLTFORMDF)	73
パラメーター	73
書式定義 (FORMDF)	73
例	74
エラー・メッセージ	75
フィルターの削除 (DLTFTR)	77
パラメーター	77
フィルター (FILTER)	77
例	78
エラー・メッセージ	78
グラフィック・シンボル・セットの削除 (DLTGSS)	79
パラメーター	79
グラフィックス・シンボル・セット (GSS)	79
例	80
エラー・メッセージ	81
DBCS変換辞書削除 (DLTIGCDCT)	83
パラメーター	83
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	83
例	84
エラー・メッセージ	84
DBCS 分類テーブル削除 (DLTIGCSRT)	85
パラメーター	85
DBCS 分類テーブル (IGCSRT)	85
例	85
エラー・メッセージ	86
DBCSフォント・テーブルの削除 (DLTIGCTBL)	87
パラメーター	87
DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)	88
例	88
エラー・メッセージ	88
イメージ・カタログの削除 (DLTIMGCLG)	91
パラメーター	91
イメージ・カタログ (IMGCLG)	91
イメージ・ファイルの保持 (KEEP)	91
従属イメージ・カタログ (DEPIMGCLG)	92
例	92
エラー・メッセージ	92
IPX記述削除 (DLTIPXD)	95
パラメーター	95
IPX記述 (IPXD)	95
例	95
エラー・メッセージ	96
ジョブ記述削除 (DLTJOBDD)	97
パラメーター	97

ジョブ記述 (JOBQ)	97
例	98
エラー・メッセージ	99
ジョブ待ち行列削除 (DLTJOBQ)	101
パラメーター	101
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	101
例	102
エラー・メッセージ	102
ジャーナル削除 (DLTJRN)	105
パラメーター	105
ジャーナル (JRN)	106
例	107
エラー・メッセージ	107
ジャーナル・レシーバー削除 (DLTJRRCV)	109
パラメーター	110
ジャーナル・レシーバー (JRRCV)	110
オプション (DLTOPT)	111
例	112
エラー・メッセージ	112
JAVAプログラムの削除 (DLTJVAPGM)	115
パラメーター	115
クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	115
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	116
例	116
エラー・メッセージ	116
信任状キャッシュ・ファイルの削除 (DLTKRCCF)	117
パラメーター	117
信任状キャッシュ・ファイル (CCF)	117
満了時間 (EXPTIME)	117
例	118
エラー・メッセージ	118
ライブラリー削除 (DLTLIB)	119
パラメーター	120
ライブラリー (LIB)	120
ASP装置 (ASPDEV)	120
例	121
エラー・メッセージ	121
ライセンス・プログラムの削除 (DLTLICPGM)	123
パラメーター	123
プロダクト (LICPGM)	124
削除する任意選択部分 (OPTION)	124
リリース (RLS)	124
ライセンス・プログラムの言語 (LNG)	125
例	125
エラー・メッセージ	125

回線記述の削除 (DLTLIND)	127
パラメーター	127
回線記述 (LIND)	127
例	127
エラー・メッセージ	128
LINUXサーバーの削除 (DLTLNXSVR)	129
パラメーター	129
ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)	129
例	129
エラー・メッセージ	130
ロケール削除 (DLTLOCALE)	131
パラメーター	131
ロケール名 (LOCALE)	131
例	131
エラー・メッセージ	131
媒体定義の削除 (DLTMEDDFN)	133
パラメーター	133
媒体定義 (MEDDFN)	133
例	134
エラー・メッセージ	134
管理コレクションの削除 (DLTMGTCOL)	137
パラメーター	137
管理コレクション (MGTCOL)	137
例	138
エラー・メッセージ	138
メニュー削除 (DLTMNU)	139
パラメーター	139
メニュー (MENU)	139
参照されたオブジェクトの削除 (DLTREFOBJ)	140
例	141
エラー・メッセージ	141
モジュールの削除 (DLTMOD)	143
パラメーター	143
モジュール (MODULE)	143
例	144
エラー・メッセージ	145
モード記述削除 (DLTMODD)	147
パラメーター	147
モード記述 (MODD)	147
例	147
エラー・メッセージ	148
メッセージ・ファイル削除 (DLTMSGF)	149
パラメーター	149
メッセージ・ファイル (MSGF)	149
例	150
エラー・メッセージ	151
メッセージ待ち行列削除 (DLTMSGQ)	153

パラメーター	153
MSG 待ち行列 (MSGQ)	153
例	154
エラー・メッセージ	155

ネットワーク・ファイル削除 (DLTNETF) 157

パラメーター	157
ファイル (FILE)	157
メンバー (MBR)	157
ファイル番号 (NBR)	158
ユーザー (USER)	158
例	158
エラー・メッセージ	159

ノード・グループの削除 (DLTNODGRP) 161

パラメーター	161
ノード・グループ(NODGRP)	161
例	162
エラー・メッセージ	162

ノード・リストの削除 (DLTNODL). . . 165

パラメーター	165
ノード・リスト (NODL)	165
例	166
エラー・メッセージ	166

NETBIOS記述の削除 (DLTNTBD) . . . 169

パラメーター	169
NETBIOS記述 (NTBD)	169
例	169
エラー・メッセージ	170

ネットワーク・インターフェース記述の 削除 (DLTNWID) 171

パラメーター	171
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	171
例	171
エラー・メッセージ	172

NWS構成の削除 (DLTNWSCFG). . . . 173

パラメーター	173
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	173
例	174
エラー・メッセージ	174

ネットワーク・サーバー記述の削除 (DLTNWSD) 177

パラメーター	177
ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)	177
例	177
エラー・メッセージ	178

NWS記憶スペースの削除 (DLTNWSSTG) 179

パラメーター	179
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	179
例	179
エラー・メッセージ	179

出力待ち行列削除 (DLTOUTQ) 181

パラメーター	181
出力待ち行列 (OUTQ)	181
例	182
エラー・メッセージ	183

オーバーレイの削除 (DLTOVL) 185

パラメーター	185
オーバーレイ (OVL)	185
例	186
エラー・メッセージ	187

一時変更削除 (DLTOVR) 189

パラメーター	189
一時変更されるファイル (FILE)	189
呼び出しレベル (LVL)	190
例	190
エラー・メッセージ	191

プログラム装置項目一時変更削除 (DLTOVRDEVE) 193

パラメーター	193
一時変更されるプログラム装置 (PGMDEV)	193
呼び出しレベル (LVL)	194
例	194
エラー・メッセージ	195

ページ定義の削除 (DLTPAGDFN) 197

パラメーター	197
ページ定義 (PAGDFN)	197
例	198
エラー・メッセージ	199

ページ・セグメントの削除 (DLTPAGSEG) 201

パラメーター	201
ページ・セグメント (PAGSEG)	201
例	202
エラー・メッセージ	203

PDFマップの削除 (DLTPDFMAP) 205

パラメーター	205
PDFマップ (PDFMAP)	205
例	206
エラー・メッセージ	206

印刷記述子グループ削除 (DLTPDG) . . . 207

パラメーター	207
記述子グループの印刷 (PDG)	207
例	208
エラー・メッセージ	209

PEXデータの削除 (DLTPEXDTA)	211
パラメーター	211
データ・メンバー (DTAMBR)	211
データ・ライブラリー (DTALIB)	211
例	211
エラー・メッセージ	212
パフォーマンス収集の削除 (DLTPFCOL)	213
パラメーター	213
集合 (COL)	213
ライブラリー (LIB)	213
収集タイプ (COLTYPE)	214
例	214
エラー・メッセージ	215
プログラム削除 (DLTPGM)	217
パラメーター	217
プログラム (PGM)	217
例	218
エラー・メッセージ	219
パネル・グループ削除 (DLTPNLGRP)	221
パラメーター	221
パネル・グループ (PNLGRP)	221
例	222
エラー・メッセージ	222
問題削除 (DLTPRB)	225
パラメーター	225
問題識別コード (PRBID)	225
状況タイプ (STATUS)	226
日数 (DAYS)	226
起点 (ORIGIN)	227
例	227
エラー・メッセージ	227
PSF構成の削除 (DLTPSFCFG)	229
パラメーター	229
PSF構成 (PSFCFG)	229
例	230
エラー・メッセージ	230
プログラム一時修正の削除 (DLTPTF)	231
パラメーター	231
PTF (PTF)	231
プロダクト (LICPGM)	231
リリース (RLS)	231
重複PTF番号の削除 (DLTDUPPTF)	232
例	232
エラー・メッセージ	232
QUERY管理機能書式の削除 (DLTQMFORM)	235
パラメーター	235

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	235
例	236
エラー・メッセージ	236
QUERY管理機能プログラム削除 (DLTQMQR)	239
パラメーター	239
QUERY管理機能プログラム (QMQR)	239
例	240
エラー・メッセージ	240
QUERY削除 (DLTQRY)	243
パラメーター	243
QUERY (QRYパラメーター)	243
例	244
エラー・メッセージ	244
質問・回答の削除 (DLTQST)	245
パラメーター	245
QAデータベース (QSTDB)	245
QAデータベースが存在するライブラリー (LIB)	246
例	246
エラー・メッセージ	246
Q/Aデータベース削除 (DLTQSTDB)	247
パラメーター	247
QAデータベース (QSTDB)	247
QAデータベースが存在するライブラリー (LIB)	248
例	248
エラー・メッセージ	248
サブシステム記述削除 (DLTSBSD)	249
パラメーター	249
サブシステム記述 (SBSD)	249
例	251
エラー・メッセージ	251
検索見出し削除 (DLTSCHIDX)	253
パラメーター	253
検索見出し (SCHIDX)	253
例	254
エラー・メッセージ	254
スペル援助辞書削除 (DLTSPADCT)	257
パラメーター	257
スペル援助辞書 (SPADCT)	257
例	258
エラー・メッセージ	258
スプール・ファイル削除 (DLTSPLF)	259
パラメーター	259
スプール・ファイル (FILE)	259
ジョブ名 (JOB)	260
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	260
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	261
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	261

ファイル選択 (SELECT)	262
ASP装置 (ASPDEV)	263
例	263
エラー・メッセージ	263

SQLパッケージの削除 (DLTSQLPKG) 265

パラメーター	265
SQLパッケージ (SQLPKG)	266
例	267
エラー・メッセージ	267

サービス構成の削除 (DLTSRVCFG) . . . 269

パラメーター	269
通信構成の削除 (DLTCMNCFG)	269
例	269
エラー・メッセージ	270

サービス・プログラムの削除 (DLTSRVPGM) 271

パラメーター	271
サービス・プログラム (SRVPGM)	271
例	272
エラー・メッセージ	272

テープ・カテゴリの削除 (DLTTAPCGY) 275

パラメーター	275
カテゴリ (CGY)	275
例	276
エラー・メッセージ	276

テーブル削除 (DLTTBL) 277

パラメーター	277
テーブル (TBL)	277
例	278
エラー・メッセージ	278

時間帯記述削除 (DLTTIMZON) 281

パラメーター	281
時間帯記述 (TIMZON)	281
例	281
エラー・メッセージ	282

トレースの削除 (DLTTRC) 283

パラメーター	283
データ・メンバー (DTAMBR)	283
データ・ライブラリー (DTALIB)	283
例	284
エラー・メッセージ	284

ユーザー定義FSの削除 (DLTUDFS) . . . 285

パラメーター	285
ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)	285
例	286
エラー・メッセージ	286

ユーザー見出し削除 (DLTUSRIDX) . . . 287

パラメーター	287
ユーザー見出し (USRIDX)	287
例	288
エラー・メッセージ	288

ユーザー・プロファイル削除 (DLTUSRPRF) 291

パラメーター	292
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	293
所有オブジェクト・オプション (OWNOBJOPT)	293
1次グループ・オプション (PGPOPT)	294
EIM関連 (EIMASSOC)	295
例	295
エラー・メッセージ	295

ユーザー待ち行列削除 (DLTUSRQ) . . . 297

パラメーター	297
ユーザー待ち行列 (USRQ)	297
例	298
エラー・メッセージ	298

ユーザー・スペースの削除 (DLTUSRSPC) 301

パラメーター	301
ユーザー・スペース (USRSPC)	301
例	302
エラー・メッセージ	303

ユーザー・トレースの削除 (DLTUSRTRC) 305

パラメーター	305
ジョブ名 (JOB)	305
例	306
エラー・メッセージ	306

妥当性検査リストの削除 (DLTVLDL) 307

パラメーター	307
妥当性検査リスト (VLDL)	307
例	308
エラー・メッセージ	308

WINDOWSサーバーの削除 (DLTWNTSVR) 309

パラメーター	309
ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)	309
例	309
エラー・メッセージ	309

WSCSTの削除 (DLTWSCST) 311

パラメーター	311
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	311
例	312
エラー・メッセージ	312

ジョブ延期 (DLYJOB)	313
パラメーター	313
ジョブ延期時間 (DLY)	313
ジョブ再開時刻 (RSMTIME)	313
例	314
エラー・メッセージ	314
遅延SRVAGT問題報告書 (DLYSRVAGTP)	315
パラメーター	315
使用可能にする (ENABLE)	315
報告日 (RPTDAY)	315
報告開始時刻 (RPTSTRTIME)	316
報告終了時刻 (RPTENDTIME)	316
例	316
エラー・メッセージ	317
オブジェクト・ダンプ (DMP)	319
パラメーター	319
オブジェクト (OBJ)	320
例	320
エラー・メッセージ	320

CLプログラム・ダンプ (DMPCLPGM)	321
パラメーター	321
例	321
エラー・メッセージ	321
クラスター・トレースのダンプ (DMPCLUTRC)	323
パラメーター	323
クラスター (CLUSTER)	324
クラスター資源グループ (CRG)	324
ノードID (NODE)	324
レベル (LEVEL)	324
物理ファイル (FILE)	325
上書きオプション (OVERWRITE)	325
例	326
エラー・メッセージ	326
付録. 特記事項	329
プログラミング・インターフェース情報	330
商標	331
使用条件	332
コードに関するライセンス情報および特記事項	332

通信トレースの削除 (DLTCMNTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信トレース削除(DLTCMNTRC)コマンドは、指定された回線、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述の通信トレースを削除します。通信トレースは、トレースの終了後に削除することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem iナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSECOFR
 - QSRV

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	必須, 定位置 2

上

構成オブジェクト (CFGOBJ)

収集したトレース情報を削除する、その構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 トレース情報を削除する、その構成オブジェクトの名前を指定します。

上

タイプ (CFGTYPE)

トレースされた構成記述のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*LIN 構成オブジェクトのタイプは回線記述です。

*NWI 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・インターフェース記述です。

*NWS 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・サーバー記述です。

上

例

```
DLTCMNTRC CFGOBJ(*QESLINE) CFGTYPE(*NWI)
```

このコマンドは、回線記述QESLINEの通信トレース・データを削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF39A7

通信プロセッサのトレース記憶域が使用できない。

CPF39A8

通信トレース保守ツールに対して認可されていない。

CPF39A9

通信トレース機能の実行中にエラーが起こった。

CPF39B0

通信トレースが存在していない。

CPF39B1

トレース&1タイプ&2が存在していない。

CPF39B2

&1のタイプ&2のトレース・データを削除できない。

CPF39B6

通信トレース機能は実行できない。

CPF98A2

&1コマンドまたはAPIは認可されていない。

上

接続リストの削除 (DLTCNNL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続リスト削除(DLTCNNL)コマンドは接続リストを削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CNNL	接続リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

接続リスト (CNNL)

接続リストの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除する接続リストの名前を指定してください。

総称名 削除する接続リストの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターで総称名を指定した場合には、総称接続リスト名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべての接続リストが削除されます。

上

例

例1:指定した接続リストの削除

```
DLTCNNL CNNL(CHICAGO)
```

このコマンドは、CHICAGOという名前の接続リストを削除します。接続リストCHICAGO中のすべての項目も削除されます。

例2:複数の接続リストの削除

```
DLTCNNL CNNL(CHI*)
```

このコマンドは、名前がCHIで始まるすべての接続リストを削除します。接続リストにリストされていたすべての項目も削除されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF266C

接続リスト&1が見つからない。

CPF267D

接続リスト&1は削除されなかった。

CPF268F

接続リスト&1は削除されなかった。

上

サービス・クラス記述削除 (DLTCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述削除(DLTCOSD)コマンドは、指定されたサービス・クラス記述を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COSD	サービス・クラス記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・クラス記述	総称名, 名前	

上

サービス・クラス記述 (COSD)

削除する1つまたは複数のサービス・クラス記述の名前を指定します。特定のサービス・クラス記述または総称のサービス・クラス記述を指定することができます。

サービス・クラス記述名

削除したいサービス・クラス記述の名前を指定してください。

総称*サービス・クラス記述

削除したいサービス・クラス記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

上

例

DLTCOSD COSD(COS01)

このコマンドは、COS01という名前のサービス・クラス記述をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

上

クラスター資源グループの削除 (DLTCRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ削除(DLTCRG)コマンドは、ローカル・システム上のクラスター資源グループだけを削除します。ローカル・クラスター資源グループを削除するには、クラスター資源サービスを非活動状態にする必要があります。

このコマンドにより、クラスター資源グループの出口プログラムは、ローカル・システム上のみでの削除コマンドのアクション・コードを使用して起動されます。

クラスターの他のノードでクラスター資源グループ・オブジェクトが存在する場合には、そのノード上のクラスター資源グループからローカル・システムのノードIDを除去することは所有者の責任です。これは、クラスター資源グループからのノード除去(RMVCRCGNODE)コマンドを使用して実行することができます。

クラスター資源グループ・オブジェクト出口プログラムは、クラスター資源グループに指定されたユーザー・プロファイルの下で実行されます。出口プログラムが存在しない場合には、メッセージがログされて、クラスター資源グループ・オブジェクトの削除が継続されます。このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムをアクション・コード「やり直し」を使用して呼び出すことはありません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 削除しているクラスター資源グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限および使用(*USE) 権限がユーザーに必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 1

上

クラスター資源グループ (CRG)

削除するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除するクラスター資源グループの名前を指定してください。

上

例

DLTCRG CRG(CRGTEST)

このコマンドは、CRGTESTの名前のクラスター資源グループをローカル・システムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFBB39

現行ユーザーはIOSYSCFG特殊権限をもっていない。

CPFBB41

クラスター資源グループ&1の出口プログラムが異常終了した。

CPFBB46

クラスター資源サービスの内部エラー。

CPFBB53

クラスター資源サービスが活動状態である。要求を処理することはできません。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

上

CRQ記述の削除 (DLTCRQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述削除(DLTCRQD)コマンドは、1つまたは複数の変更要求記述を削除します。

制約事項: 変更要求記述を削除するためには、オブジェクト存在権限を持っていない限りなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRQD	要求記述の変更	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 要求記述の変更	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

要求記述の変更 (CRQD)

削除する変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRB	QUSRVI
QGPL	QSRVAGT	QUSRIJS	QUSRVRxMx
QGPL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

変更要求記述名

削除する変更要求記述の名前を指定してください。

変更要求記述の総称名*

変更要求記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前が一致するか、または指定したストリングで始まるすべての変更要求記述が削除されます。

上

例

例1:固有のライブラリーからの変更要求記述の削除

```
DLTCRQD CRQD(MYLIB/CHG001)
```

このMYLIBは、名前がCHG001のMYLIBにある変更要求記述を削除します。

例2:総称名を使用した変更要求記述の削除

```
DLTCRQD CRQD(*LIBL/CHG*)
```

このコマンドは、ライブラリー・リスト中の名前がCHGで始まるすべての変更要求記述を削除します。

例3:現行ライブラリーからの変更要求記述の削除

```
DLTCRQD CRQD(*CURLIB/CHG456)
```

このコマンドは、現行ライブラリーにあるCHG456という名前の変更要求記述を削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

通信サイド情報の削除 (DLTCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報削除(DLTCSI)コマンドは、指定された1つまたは複数のライブラリーからサイド情報オブジェクトを削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

サイド情報 (CSI)

削除するサイド情報オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

(総称名ではなく) 特定の記号宛先名を指定した場合には、その名前で最初に見つかった記号宛先名が削除されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRB RM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトを削除するライブラリーの名前を指定してください。

サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが入っているオブジェクトの名前を指定してください。

総称*サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが入っているオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

上

例

```
DLTCSI    CSI(QGGL/SIDEOBJ)
```

このコマンドは、SIDE OBJという名前の通信サイド情報オブジェクトをライブラリーQGGLから削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

制御装置記述の削除 (DLTCTLD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置記述の削除(DLTCTLD)コマンドは、指定された制御装置記述を削除します。制御装置記述は、これを削除するためにこのコマンドが出される前に、オフラインに構成変更されなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

制御装置記述 (CTLD)

制御装置記述の名前を指定します。

制御装置記述名

削除したい制御装置記述の名前を指定してください。

総称*制御装置記述名

削除したい制御装置記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

上

例

DLTCTLD CTLD(CONTROL01)

このコマンドは、CONTROL01という名前の制御装置記述をシステムから削除します。削除される制御装置記述に関連の装置記述がある場合には、それらが切り離され、その名前を示すメッセージがシステム操作員に送られます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2615

この操作のためには制御装置&1をオフに構成変更しなければならない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2636

コマンドは処理されなかった。制御装置&1は使用中です。

CPF2697

割り当てられた時間内に要求が完了しなかった。

CPF2717

制御装置記述&1は削除されなかった。

CPF2782

メッセージ&1は監視されていない。

上

装置記述の削除 (DLTDEVD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の削除(DLTDEVD)コマンドは、指定された装置記述を削除します。装置記述は、これを削除するためにこのコマンドが出される前に、オフラインに構成変更されなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

装置記述 (DEVD)

削除する1つまたは複数の装置記述の名前を指定します。特定の装置記述または総称の装置記述を指定することができます。

装置記述名

削除したい装置記述の名前を指定してください。

総称*装置記述名

削除したい装置記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

上

例

DLTDEVD DEVD(DSPC01)

このコマンドは、DSPC01という名前の装置の装置記述をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF2605

&1を割り振ることができなかった。

CPF2615

この操作のためには制御装置&1をオフに構成変更しなければならない。

CPF2616

装置記述&1は削除されなかった。装置は使用中です。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2646

削除要求は正常に実行されなかった。

CPF2648

装置&1に削除要求は認められない。

CPF2668

オブジェクト記述は削除されなかった。

CPF268E

装置記述&1を削除または名前変更することはできない。

CPF2697

割り当てられた時間内に要求が完了しなかった。

CPF2782

メッセージ&1は監視されていない。

上

装置媒体ライブラリーの削除 (DLTDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置媒体ライブラリー削除(DLTDEVMLB)コマンドは、システムから装置媒体ライブラリー作成 (CRTDEVMLB)コマンドによって前に作成されているライブラリー装置名を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1

上

装置記述 (DEV D)

システムから削除されるライブラリー装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ライブラリー装置の名前を指定してください。

上

例

DLTDEVMLB DEV D(TAPMLB01)

このコマンドは、テープ媒体ライブラリー装置記述TAPMLB01を削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

DFUプログラムの削除 (DLTDFUPGM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DFUプログラムの削除(DLTDFUPGM)コマンドは、DFUプログラムをライブラリーから削除します。

エラー・メッセージ: DLTDFUPGM

なし

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFUPGM	DFUプログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DFUプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

DFUプログラム (DFUPGM)

削除するDFUプログラムの修飾名を指定します。

*LIBL DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

なし

文書ライブラリー・オブジェクト削除 (DLTDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト削除(DLTDLO)コマンドによって、文書またはフォルダーを削除することができます。

このコマンドを使用して、不要となった文書およびフォルダーをシステムから削除し、使用しないオブジェクトがシステム記憶域を使用しないようにします。

注: 文書を削除する時には、テキスト索引からその項目（ある場合）を除去する要求が生成されます。

制約事項:

- 文書またはフォルダーを削除するためには、その文書またはフォルダーに対する全(*ALL)権限、全オブジェクト(*ALLOBJ)、あるいはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- すべての文書またはフォルダーを削除するか、あるいは自分以外の所有者を指定するためには、*ALLOBJまたは*SECADM特殊権限が必要です。
- 実行キーを押すと、指定された文書またはフォルダーが削除されます。文書またはフォルダーが削除される前にプロンプトの表示はありません。
- 文書またはフォルダーが使用中である場合には、文書またはフォルダーは削除されません。
- 複数の文書またはフォルダーが削除用に指定されたが、そのうちの1つが使用中であるか認可されていないために削除できない時には、メッセージが送られ、リストに残っている文書またはフォルダーについては削除が続行されます。
- フォルダーとその中のすべての文書およびフォルダーが削除される場合には、そのフォルダーから削除できない文書またはフォルダーは残りますが、それ以外のものはすべて削除されます。削除できない文書およびフォルダーについてはメッセージが送られます。
- このコマンドの使用中に、内部オブジェクトはロックされていることを示すエラー・メッセージが見つかることがありますDLTDLOコマンドと同時に実行できない文書ライブラリー機能を別のユーザーが使用しているので、数分待ってこのコマンドをやり直してください。
- *ANYのASP値を指定できるのは、DLO(*ALL) FLR(*ANY)またはDLO(*SEARCH) FLR(*ANY)が指定された時だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *SEARCH, *ALL, *SYSOBJNAM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー中	文字値, *ANY, *NONE	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRTDATE	作成期	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u>	
CHKEXP	満了日	日付, <u>*NO</u> , <u>*CURRENT</u>	オプション
DOCCLS	文書クラス	文字値, <u>*ANY</u>	オプション
OWNER	所有者プロファイル	名前, <u>*CURRENT</u> , <u>*ALL</u>	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , <u>*DEV</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
ASP	補助記憶域プールID	1-32, <u>*ANY</u>	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

削除される文書またはフォルダーを指定します。DLO(*SEARCH)が指定されていない場合には、CRTDATE、CHKEXP、DOCCLS、CMDCHRID、およびOWNERは指定できません。

これは必須パラメーターです。

***ALL** フォルダー中 (FLR)パラメーターに指定されたフォルダーに現在ファイルされているすべての文書またはフォルダーが削除されます。

*SEARCH

指定された検索値と一致するすべての文書およびフォルダーが削除されます。検索値は次のパラメーターを使用して指定されます。複数のパラメーターを指定する場合には、これらを結合するために"AND"関係が使用されます。

- フォルダー中 (FLR)パラメーター
- 作成期 (CRTDATE)パラメーター
- 満了日 (CHKEXP)パラメーター
- 文書クラス (DOCCLS)パラメーター
- 所有者プロファイル (OWNER)パラメーター

*SEARCHが指定された場合には、検索は文書明細を調べて実行されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定された文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名が使用されます。

名前 削除される特定の文書またはフォルダーの1つまたは複数の文書またはフォルダー名を指定します。最大300の文書またはフォルダーを指定することができます。

注: フォルダーおよびフォルダー内のすべての文書およびフォルダーを削除するためには、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*ALLを、および**フォルダー中 (FLR)**パラメーターを使用してフォルダー名を指定してください。そうでない場合、フォルダー名を**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定する場合には、削除するフォルダーは空でなければなりません。

上

フォルダー中 (FLR)

文書またはフォルダーが入っているフォルダーを指定します。文書またはフォルダーがフォルダー内に存在しない場合には、*NONEが指定されます。

*NONE

文書またはフォルダーはフォルダー中に入っていません。**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーター*SEARCHおよび*ALL値は、フォルダー内に入っていない文書およびフォルダーに対してだけ適用されます。

***ANY** システム全体の検索が行われます。**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターの*SEARCHおよび*ALLの値は、フォルダー内に入っていないものも含めて、すべての文書およびフォルダーに適用されます。

名前 文書またはフォルダーが入っているフォルダー名を指定してください。

上

作成期 (CRTDATE)

指定された期間中に作成された文書およびフォルダーが削除されます。このパラメーターが指定された場合には、*SEARCHは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

要素1: 開始時刻

*AVAIL

任意の時刻に作成された文書およびフォルダーが削除されます。

時刻 時刻を指定します。開始日に指定された時刻以降に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 選択処理で秒数を使用しない場合は、秒数値に0を指定してください。

開始時刻が検索値として使用される場合には、開始時刻は*BEGINであってははいけません。

要素2: 開始日付

***CURRENT**

このコマンドを入力する日付で、開始時刻（指定された場合）以降に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。

***BEGIN**

指定された日付に作成された文書およびフォルダーが削除されます。（開始日および時刻は無視されます。）

日付 日付を指定します。指定された日付以降に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

要素3: 終了時刻

***AVAIL**

任意の時刻に作成された文書およびフォルダーが削除されます。

時刻 時刻を指定します。終了日の指定された時刻以前に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。時刻の指定の詳細については、このパラメーターの**開始時刻**を参照してください。終了時刻を検索値として使用する場合には、終了日が***END**であってははいけません。

要素4: 終了日付

END** 任意の日付に作成された文書およびフォルダーが削除されます。END**が指定された場合には、終了時刻は無視されます。

日付 日付を指定します。この日付以前に作成された文書およびフォルダーだけが削除されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

満了日 (CHKEXP)

削除される文書の満了日を指定します。満了日は、その文書が不要となる時を指定するために割り当てられます。指定された日付以前に満了日のある文書（文書明細変更画面にユーザーによって指定される）が削除されます。このパラメーターを指定した場合には、***SEARCH**も**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

***NO** 文書の満了日は無視されます。

***CURRENT**

今日の日付より前に満了日がある文書だけが削除されます。

日付 日付を指定します。指定された日付より前に満了日がある文書だけが削除されます。

上

文書クラス (DOCCLS)

削除される文書のクラスを指定します。このパラメーターを指定した場合には、***SEARCH**も**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定しなければなりません。

***ANY** その文書のクラスに関係なく、文書が削除されます。

クラス 1から16桁の長さの範囲で文字ストリングを指定します。指定されたクラスの文書だけが削除されます。比較では、指定された文書クラスおよびすべての文書の文書クラスが大文字に変換されません。

上

所有者プロファイル (OWNER)

削除される文書およびフォルダーの所有者を指定します。このパラメーターを指定した場合には、*SEARCHも文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定しなければなりません。

*CURRENT

ユーザーによって所有されている文書またはフォルダーだけが削除されます。

***ALL** そのオブジェクトの所有者に関係なく、文書およびフォルダーが削除されます。*ALLを指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

名前 ユーザーの名前を指定してください。指定したユーザーによって所有される文書またはフォルダーだけが削除されます。ユーザー以外の所有者を指定するためには、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限が必要です。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

削除される文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。最大300のシステム・オブジェクトを指定することができます。システム・オブジェクト名を指定できるのは、*SYSOBJNAMが文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された場合だけです。

名前 削除される1つまたは複数のシステム・オブジェクト名を指定します。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値 (文書クラス (DOCCLS)パラメーターに適用される) として入力中のデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDは、コマンドの入力に使用された表示装置と関連しています。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVVD

システムは、このコマンドを入力した表示装置記述からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページの値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから指定された時にだけ有効です。この値が対話式CLプログラムまたはバッチ・ジョブで指定されると、エラー・メッセージが送られます。

図形文字セット・コード・ページ

コマンド・パラメーターを作成するために使用される図形文字セットおよびコード・ページ値を指定してください。各値の長さは最大3桁とすることができます。

上

補助記憶域プールID (ASP)

削除される文書ライブラリー・オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)のID (ID)を指定します。*ANY以外の値を指定できるのは、DLOパラメーターに*ALL または*SEARCHが指定され、しかもFLRパラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***ANY** そのオブジェクトのASPに関係なく、システム上の文書ライブラリー・オブジェクトが削除されます。

1から32

指定されたASPに存在する文書ライブラリー・オブジェクトのみが削除されます。他のASPに存在する文書ライブラリー・オブジェクトはすべて無視されます。この値は、文書ライブラリー・オブジェクトを含む既存のASPを指定していなければなりません。ASP 1はシステムASPです。

注: このオプションは、ユーザーASP（特にオーバーフローしたASP）の損傷からの回復を援助するために用意されています。文書ライブラリー・オブジェクトとその明細が損傷ASPから削除され（そのASPに対して必要なデータ回復処置が取られた後で）、その結果として、バックアップ媒体からの復元の前にその損傷ASPからオーバーフローしたオブジェクトと損傷した可能性のあるオブジェクトが除去されます。ASP内の文書ライブラリー・オブジェクトの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)に記載されています。

上

例

例1:フォルダーの削除

```
DLTDLO DLO(ABC)
```

このコマンドはフォルダーABCに文書もフォルダーも入っていないと、フォルダーABCを削除します、

例2:フォルダー内の文書およびフォルダーのすべての削除

```
DLTDLO DLO(*ALL) FLR(ABC)
```

このコマンドは、ユーザーがフォルダーABCから削除することを許可されている文書およびフォルダーのすべてを削除します。フォルダーABCは、空になるように消されると、そのフォルダーも削除されます。

例3: *SECADM特殊権限を使用した文書クラス内の文書のすべての削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH)
        CRTDATE(((*AVAIL 080187) (*AVAIL 083187)))
        DOCCLS(LETTERS) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、1987年8月中にシステムにファイルされた文書クラスLETTERS内の文書のすべてを削除します。OWNER(*ALL)を指定することができるのは、機密保護担当者または*SECADM特殊権限をもつユーザーだけです。

例4:現行ユーザーの文書の削除

30 System i: プログラミング i5/OS コマンド DLTCMNTRC (通信トレース削除)

```
DLTDLO DLO(*SEARCH) CRTDATE((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))
        DOCCLS(*ANY) OWNER(*CURRENT)
```

このコマンドは、現行ユーザーに属している文書のすべてを削除します。

例5:当日ファイルしたユーザーの文書の削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH)
```

このコマンドは、指定のユーザーに属している当日ファイルされた文書のすべてを削除します。

例6:文書記述子を持つ文書およびフォルダーの削除

```
DLTDLO DLO(*SEARCH) CRTDATE((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))
        DOCCLS(*ANY) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、文書記述子をもつ文書およびフォルダーのすべてをシステムから削除します。文書記述子が文書およびフォルダー・オブジェクトと同期していない場合は、DLO(*ALL)と同じになります。INFORMATION CENTERのバックアップ、リカバリー、およびアベイラビリティのトピックには、文書記述子の同期に関する情報が記載されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF8A16

文書ライブラリー・オブジェクトは削除されなかった。&1個のオブジェクトが削除されました。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9029

所有者プロファイル&1を指定することはできない。

CPF903A

文書またはフォルダーの活動が停止していないので、要求された操作を実行することができない。

CPF9031

DLO(*ALL)を指定する権限がない。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9046

フォルダー&1に検索仕様を満たす文書は見つからなかった。

CPF9062

時間が*AVAILでない時には、日付を指定しなければならない。

CPF9063

開始および終了CRTDATEが逆の順序で指定された。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

文書リスト削除 (DLTDOCL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書リスト削除(DLTDOCL)コマンドにより、文書リストをシステムから削除することができます。すべての文書リストはライブラリーQUSRSYSに記憶されています。

制約事項:

- 文書リストを削除するためには、文書リストに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権をもっているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限、あるいはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- 他のユーザーの文書リストを削除するためには、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DOCL	文書リスト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
OWNER	文書リスト所有者	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT, *ALL	

上

文書リスト (DOCL)

システムから削除する文書リストを指定します。

***ALL** 指定された所有者のすべての文書リスト・オブジェクトが削除されます。

名前 削除する文書リスト・オブジェクトの名前を指定してください。最大300個の文書リスト・オブジェクトを指定することができます。

上

文書リスト所有者 (OWNER)

削除する文書リストの所有者を指定します。文書リスト (DOCL)パラメーターに文書リスト名のリストを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

***CURRENT**

所有しているすべての文書リストが削除されます。

***ALL** すべての所有者のすべての文書リストが削除されます。

名前 削除する文書リストを所有しているユーザーの名前を指定してください。このユーザーの所有しているすべての文書リストが削除されます。

上

例

例1: 現行ユーザーの文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(*ALL) OWNER(*CURRENT)
```

このコマンドは、現行ユーザーが所有している文書リストのすべてを削除します。

例2: すべてのユーザーの文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(*ALL) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのユーザーが所有している文書リストのすべてを削除します。

例3: 指定されたユーザーが所有している文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(*ALL) OWNER(ANN)
```

このコマンドは、ANNが所有している文書リストのすべてを削除します。

例4: ユーザーが所有する特定文書リストの削除

```
DLTDOCL DOCL(AN8T475237)
```

このコマンドは、このコマンドを実行中のユーザーが所有している文書リストAN8T475237を削除します。ユーザーの所有オブジェクトを表示すると、特定文書リストのシステム・オブジェクト名が表示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9002

指定された文書リストを削除することができない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9051

&1文書リストが削除された。&2文書リストは削除されませんでした。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

配布削除 (DLTDST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布削除(DLTDST)コマンドによって、ユーザー自身の配布を削除するか、あるいは別のユーザーの配布を削除することができます。またこのコマンドによって、システム操作員は損傷のある配布オブジェクトおよび留保中の配布オブジェクト（配布追跡オブジェクトによって制御されていない配布オブジェクト）を削除することができます。

制約事項:

1. 別のユーザーの代行処理をする場合には、*ALLOBJ特殊権限をもっているか、あるいはユーザー認可 (GRTUSRPMN)コマンドによって他のユーザーの代行処理を認可されていなければなりません。
2. コマンドの要求元はシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
3. 要求元が他のユーザーに代わって処理を行う場合には、個人用配布を要求することはできません。
4. 損傷のある配布オブジェクトおよび留保中の配布オブジェクトを削除できるのは、サインオンしていて *ALLOBJ権限をもっているユーザーだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DSTID	配布ID	単一値: *ERROBJ その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
OPTION	着信または発信	*IN, *OUT, *ERR	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	値 (最大 50 回の繰り返し): 0-99, *NONE	オプション
OBJ	オブジェクト	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

配布ID (DSTID)

配布の固有のIDを指定します。このIDは、この配布を開始したシステムによって配布に割り当てられたものです。配布IDは配布QUERY(QRYDST) コマンドを使用して見つけることができます。IDは配布送信(SNDDST)コマンドからも戻されます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

これは必須パラメーターです。

*ERROBJ

削除される配布は損傷があるか、あるいは留保中の配布オブジェクトです。

注: 損傷のある配布または留保中の配布を削除するためには、OBJパラメーターにも値を指定しなければなりません。

配布ID

配布IDを指定してください。次のものを指定することができます。

- 最大50個までのID
- 送信元のアドレス (右側に空白を挿入して合計8文字にする)
- 送信元ユーザーID (右側に空白を挿入して合計8文字にする)
- ゾーン順序番号 (先行ゼロを含めて4桁)

注:

- 配布IDに空白または特殊文字がある場合には、アポストロフィが必要です。
- 指定する配布は損傷があったり留保されていてはいけません。

上

着信または発信 (OPTION)

配布IDプロンプト(DSTIDパラメーター) で指定された配布が着信配布, 発信配布, またはエラー配布のいずれであるかを指定します。

*IN ユーザーに送られた着信配布は削除されます。

*OUT ユーザーからの発信配布は削除されます。発信配布は、要求された配布確認と一緒に1人または複数のユーザーに送られる配布についての、システムが保管する状況です。

*ERR エラー状況配布は削除されます。これは、配布の経路指定時にエラーが起こったために戻された状況です。

上

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

上

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布IDプロンプト(DSTIDパラメーター)で指定された配布IDのエクステンション(ある場合)を指定します。このエクステンションは重複した配布を固有に識別します。このエクステンションは00から99の範囲の2桁のエクステンションです。

*NONE

重複した配布はありません。*NONEは着信配布の01のエクステンションと同等です。発信および配布されない状況配布の場合には、これは00と同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

上

オブジェクト (OBJ)

削除される損傷または留保中の配布オブジェクトを指定します。

*NONE

損傷または留保中の配布オブジェクトは削除されません。

*ALL 損傷のある留保中の配布オブジェクトはすべて削除されます。

オブジェクト名

削除する損傷または留保中の配布オブジェクトを指定してください。

指定するオブジェクトはローカル・オブジェクトでもリモート・オブジェクトでも構いません。

- ローカル・オブジェクト名は、送信元のアドレス(右側に空白が埋め込まれて最大8文字まで)、送信元ユーザーID(右側に空白が埋め込まれて最大8文字まで)、および先行ゼロを含めて4桁のゾーン順序番号から構成されています。例えば、次の通りです。

```
'NEWYORK SMITH 0204' または  
UADDRESSUSERID0099
```

配布IDの中に空白または特殊文字が入っている場合には、アポストロフィが必要です。ユーザーIDまたはアドレスの中では空白文字が有効なので、配布IDはこのような方法で指定されます。

- リモート・オブジェクト名は、リモート・システム名とシステム日付および時刻から構成されています。例えば、次の通りです。

```
'QOSRDIST091112509152355'
```

ここで、QOSRDISTはリモート・システム名、0911125はシステム日付(1991年11月25日)、09152355はシステム時刻(9:15:23:55)です。

損傷または留保中の配布の配布IDは文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドの実行時に判別することができ、損傷または留保配布オブジェクトが識別されます。

最大50個のオブジェクトを削除のために指定することができます。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

配布IDプロンプト(DSTIDパラメーター) およびユーザー識別コードプロンプト(USRIDパラメーター) に指定された値が、配布QUERY(QRYDST)コマンドによって作成された出力ファイルから読み取られている場合には、このパラメーターに'930 500'を指定してください。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

例1:ユーザーに送信済みの着信配布の削除

```
DLTDST DSTID(('RCH38P BAKER 0019')) USRID(*CURRENT)
        DSTIDEXN(02)
```

このコマンドは、ユーザーに送信済みの着信配布を削除します。

例2:配布発信の状況の削除

```
DLTDST DSTID(('SYSTEM20 BRUCE 1361'))
        USRID(*CURRENT) DSTIDEXN(00)
        OPTION(*OUT) CMDCHRID(101 37)
```

このコマンドは、発信配布と関連した状況を削除します。DSTIDパラメーターは、コード・ページが37であり、文字セットが101である文字IDでエンコードされます。システムは、配布宛先索引で配布先を見付けようとする前にDSTIDパラメーター値に対する変換を実行します。

例3:サインオン・ユーザーへの着信配布の削除

```
DLTDST DSTID(('CHICAGO JONES 0013'))
```

このコマンドは、サインオンしているユーザーに送信済みの着信配布を削除します。着信配布の場合は、配布拡張の省略時の値として'01'が使用されます。重複する配布が送信された場合は、このコマンドは最初のを削除するだけです。

例4:損傷した配布のすべての削除

```
DLTDST DSTID(*ERROBJ) OBJ(*ALL)
```

このコマンドは、システム上の損傷した配布およびダングリング配布のすべてを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF89BD

DSTID(*ERROBJ)でオブジェクトを指定しなければならない。

CPF900A

&2配布は削除されたが、&1配布は削除できなかった。

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF9016

&1の配布&2-&3-&4の取り消し要求が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF906C

配布は削除されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD)、DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

上

配布リスト削除 (DLTDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト削除(DLTDSTL)コマンドは、システム配布ディレクトリーから既存の配布リストを削除します。

制約事項:他のユーザーの所有している配布リストを削除するためには、機密保護管理者権限が必要です。自分が所有している配布リストを削除するには特殊権限は不要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LSTID	リスト識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

リスト識別コード (LSTID)

削除される配布リストの2つの部分から成るリストIDを指定します。最大300個のリストID（両方の部分）を指定することができます。各リストIDの各部分に、最大8文字まで指定することができます。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

これは必須パラメーターです。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

配布ID (DSTID)パラメーターおよび**ユーザー識別コード (USRID)**パラメーターの値が、配布QUERY (QRYDST)コマンドによって作成された出力ファイルから読み取られる場合には、このパラメーターの値として'930 500'を使用してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

```
DLTDSTL LSTID((DEPT48K DLIST) (ISMGRS DSTLIST))
```

このコマンドは、2つの配布リスト(DEPT48K DLISTおよびISMGRS DSTLIST)が存在していると、それを削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9094

&1個の配布リストが削除された。&2個のリストは削除されません。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

データ域削除 (DLTDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域削除 (DLTDTAARA)コマンドは、指定されたデータ域をライブラリーから削除します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、データ域に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. ローカル・データ域、グループ・データ域、およびプログラム初期設定パラメーター・データ域を削除することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTAARA	データ域	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

データ域 (DTAARA)

削除するデータ域の名前およびライブラリーを指定します。特定のデータ域または総称データ域を指定することができます。どちらのタイプの名前も、必要に応じてライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ域

総称名 削除するデータ域の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称データ域と同じ接頭部を持つ名前のすべてのデータ域が削除されます。

名前 データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

*ALL 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

上

例

```
DLTDTAARA  DTAARA(MYLIB/MYDATA)
```

このコマンドは、ユーザーがデータ域およびライブラリーに対する適切な権限を持っている場合に、MYDATAという名前のデータ域をライブラリーMYLIBから削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

データ・ディクショナリー削除 (DLTDTADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー削除(DLTDTADCT)コマンドはデータ・ディクショナリーを削除します。ディクショナリーを削除する前に、ディクショナリー内の定義に連係するすべてのプログラム記述ファイルの連係を解除しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	必須, 定位置 1

上

データ・ディクショナリー (DTADCT)

削除するデータ・ディクショナリーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

DLTDTADCT DTADCT(DEPT547)

このコマンドは、DEPT547データ・ディクショナリーを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2FE2

ディクショナリー&1は現在使用中である。

CPF2FE3

システム相互参照ファイルにエラーがある。

CPF2FE4

システム相互参照ファイルを使用することはできない。

CPF2F0B

データ・ディクショナリー&1を削除することはできない。

CPF2F0C

SQLデータ・ディクショナリー&1の削除は認められない。

CPF2F0D

データ・ディクショナリー&1が部分的に削除された。

CPF2F0F

データ・ディクショナリー&1は削除されなかった。

CPF2F05

ディクショナリー&1の削除は認可されていない。

CPF2F08

辞書&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

データ待ち行列削除 (DLTDTAQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ待ち行列削除(DLTDTAQ)コマンドは、指定されたデータ待ち行列(1つまたは複数) をシステムから削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ待ち行列名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

削除する1つ以上のデータ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 削除するデータ待ち行列の名前を指定してください。

総称*名

削除するデータ待ち行列の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称データ待ち行列名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのデータ待ち行列が削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーがライブラリー・リストに存在しない場合は、QGPLを使用して、削除するデータ待ち行列を見つけます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーを指定してください。

上

例

```
DLTDTAQ  DTAQ(DEPTADTAQ)
```

このコマンドは、DEPTADTAQという名前のデータ待ち行列をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF9503

&2のデータ待ち行列&1をロックすることはできない。

上

編集記述削除 (DLTEDTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述削除(DLTEDTD)コマンドは、指定されたユーザー定義の編集記述を削除します。

注: すでに作成されているデータ記述仕様(DDS),または高水準言語プログラムは、影響を受けません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
EDTD	編集記述	単一値: 5, 6, 7, 8, 9 その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 編集記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QSYS</u>	

上

編集記述 (EDTD)

削除される1桁の数字コード(5, 6, 7, 8,または9)あるいはユーザー定義の編集記述の名前を指定します。1桁の数字コードを入力した場合には、その数字と対応するIBM提供編集記述名とみなされます。たとえば、数字5を入力した場合には、IBM 提供編集記述名QEDIT5とみなされます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

1桁の数字コード

削除する編集記述の数字コード(5, 6, 7, 8,または9)を指定します。

編集記述名

削除する編集記述の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QSYS 指定された編集記述がQSYSライブラリーの中でのみ検索されます。

ライブラリー名

指定した編集記述を検索するライブラリーを指定します。

上

例

DLTEDTD EDTD(5)

このコマンドは、システムからユーザー定義の編集記述5を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

上

満了スプール・ファイルの削除 (DLTEXPSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

満了スプール・ファイル削除(DLTEXPSPLF)コマンドは、ユーザーが指定したシステムまたは補助記憶域プール(ASP)上の満了したスプール・ファイルを除去します。スプール・ファイルは、**ファイルの満了日 (EXPDATE)**スプール・ファイル属性に指定された日付のシステム現地時間の23:59:59に満了します。満了スプール・ファイルの除去を自動化するには、DLTEXPSPLFコマンドを1日に1回実行するジョブ・スケジュール項目を作成することができます。ジョブ・スケジュール項目追加(ADDJOBSCDE)コマンドの使用例については、**例**セクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、スプール制御(*SPLCTL)特殊権限が必要です。*ALLまたは特定の**ASPグループ (ASPGRP)**を指定する場合には、ユーザーは、ASPグループのすべてのASP装置記述に対して使用(*USE)権限を持っている必要があり、ASPグループの状況はAVAILABLEになっている必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASPGRP	ASPグループ	名前, *ALL, *SYSBAS	オプション, 定位置 1

上

ASPグループ (ASPGRP)

除去する満了スプール・ファイルが入っている補助記憶域プール(ASP)グループを指定します。

***ALL** システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)と、すべての1次および2次ASPで見つかった満了スプール・ファイルが削除されます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)で見つかった満了スプール・ファイルが削除されます。

名前 ASPグループの名前を指定してください。指定したASPグループの1次および2次ASPで見つかった満了スプール・ファイルが削除されます。

上

例

例1:満了したすべてのスプール・ファイルの削除

```
DLTEXPSPLF  ASPGRP(*ALL)
```

このコマンドは、システム上で満了したすべてのスプール・ファイルを削除します。

例2:システムASP (ASP 1)およびすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)中のすべての満了スプール・ファイルの削除

```
DLTEXPSPLF  ASPGRP(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システムASP (ASP 1)およびすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)にあるすべての満了スプール・ファイルを削除します。

例3:満了スプール・ファイルを除去するためのジョブ・スケジュール項目の作成

```
ADDJOBSCDE  JOB(DLTEXPSPLF) CMD(DLTEXPSPLF ASPGRP(*ALL))
             FRQ(*WEEKLY) SCDDATE(*NONE) SCDDAY(*ALL)
             SCDTIME(010000) JOBQ(QSYS/QSYSNOMAX)
             TEXT('DELETE EXPIRED SPOOLED FILES SCHEDULE ENTRY')
```

このコマンドは、DLTEXPSPLFコマンドがJOBQパラメーターに指定したジョブ出力待ち行列の中でSCDTIMEパラメーターに指定した時刻に毎日実行されるようにするジョブ・スケジュール項目を作成します。FRQ(*WEEKLY)およびSCDDAY(*ALL)パラメーターを使用すると、曜日ごとに実行されるようジョブがスケジュールされます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF334F

失効したスプール・ファイル削除(DLTEXPSPLF)のコマンドは許可されていません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPFB8E9

ASPグループ&1はスレッド&2に対して設定されません。

上

ファイル削除 (DLTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル削除(DLTF)コマンドは、システムから1つまたは複数のファイルを削除します。

データベース（物理または論理ファイル）が削除される場合には、ファイルに入っているすべてのメンバーも削除されます。物理ファイルを削除できるのは、論理ファイルがそれに対応していない場合だけです。システム間通信機能(ICF)ファイルが削除される場合には、そのファイルに含まれるすべてのプログラム装置項目も削除されます。削除中のファイルがプログラムによって使用されている（ファイルがオープンされている）場合には、そのファイルは削除されません。

総称名による削除操作は、削除に適格でその総称名をもつすべてのファイルを削除します。削除できないファイルについては、診断メッセージが送信されます。次の理由により、ファイルが削除に不適格となる場合があります。

- 論理ファイルは、その基礎となっている物理ファイルを削除する前に削除しなければなりません。
- SQLビューは、それらの基礎となっている物理ファイル、SQLテーブル、またはSQLビューを削除する前に削除しなければなりません。

制約事項:

- ファイルのオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。また、ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限も必要です。
- 物理ファイルを削除する場合で、論理ファイルがその物理ファイル中のデータを使用している場合には、最初に論理ファイルを削除しなければなりません。
- SQL具体化照会テーブルの選択リストに物理ファイルまたはSQLビューが参照されている場合には、DLTFは許可されません。最初に具体化照会テーブルが削除されなければなりません。
- デバッグ中にDLTFコマンドを入力する場合に、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはデバッグ変更(CHGDBG)コマンドにUPDPROD(*NO)が指定されている場合には、データを含んでいてプロダクション・ライブラリーの中にある物理ファイルは削除することはできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。またこのコマンドは、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにスレッド・セーフでもなく、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)を指定すると正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション
RMVCST	制約の除去	*RESTRICT, *REMOVE, *KEEP	オプション

上

ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

削除する1つ以上のファイルを指定します。特定のファイル名または総称ファイル名を指定することができません。

参照制約の親または従属ファイルとして定義済みまたは確立済みのファイルが削除される可能性があります。削除されるファイルが従属ファイルの場合には、次の項目も除去されます。

- 従属ファイルについてのすべての制約関係
- 従属ファイルのすべての外部キーのアクセス・パスおよび外部キー

削除されるファイルが親ファイルの場合には、除去される制約関係を指定するために**制約の除去 (RMVCST)**パラメーターが使用されます。

修飾子1: ファイル

総称名 削除するファイルの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が続く文字ストリングで指定できます。

名前 削除するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、ライブラリーQGPLが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。オブジェクト名が指定されている（総称名ではなく）場合には、その名前で見つかった最初のオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #SDALIB
#DFULIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPMYSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

上

システム (SYSTEM)

ファイルをローカル・システムから削除するかあるいはリモート・システムから削除するか、そのいずれかを指定します。

***LCL** ファイルはローカル・システムから削除されます。

***RMT** ファイルはリモート・システムから削除されます。ファイル (FILE)パラメーターにDDMファイルを指定しなければなりません。DDMファイルは、削除されるファイルを識別し、リモート・システムも識別します。

*FILETYPE

FILEパラメーターにDDMファイルが指定されていない場合には、ローカル・システムからファイルが削除されます。FILEパラメーターにDDMファイルが指定されている場合には、リモート・システムからDDMファイルのリモート・ファイルIDが削除されます。

上

制約の除去 (RMVCST)

参照制約の親ファイルを削除する時に、従属ファイルの関連セット中で除去される制約関係の数を指定します。

***RESTRICT**

制約関係が親ファイルと従属ファイルの間で定義済みまたは確立済みの場合には、親ファイルは削除されず、制約関係は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

***REMOVE**

親ファイルと従属ファイルの間の制約関係は除去されます。従属ファイルの対応する外部キーのアクセス・パス（存在し、共有されていない場合）および外部キーは除去されます。

***KEEP**

制約関係はもう確立されていませんが、制約定義は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

上

例

例1: 特定のファイルの削除

```
DLTF FILE(BILLING/ORDERS)
```

このコマンドは、ライブラリーBILLINGのORDERSという名前のファイルを削除します。このファイルは、BILLINGライブラリーで検索されるだけです。

例2: 参照制約の親ファイルの削除

```
DLTF FILE(BILLING/QUERIES) RMVCST(*KEEP)
```

このコマンドは、ライブラリーBILLINGのQUERIESという名前のファイルを削除します。QUERIESファイルは参照制約の親ファイルであるために、設定された参照制約は除去されますが、制約の定義は除去されません。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0607

ファイルが別のジョブによって削除された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0675

&2の装置ファイル&1が使用中である。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

- CPF2110**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF2114**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。
- CPF2117**
タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。
- CPF2125**
オブジェクトは削除されなかった。
- CPF2182**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF2189**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。
- CPF2190**
リモート削除または名前変更要求を行うことはできない。
- CPF320B**
データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。
- CPF3203**
&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。
- CPF3219**
&2のファイル&1のファイルまたはメンバーを削除することができない。
- CPF3220**
&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。
- CPF323C**
QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。
- CPF324B**
ファイル&1にディクショナリーを割り振ることができない。
- CPF3252**
マシン・ロックの最大数を越えた。
- CPF326A**
ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。
- CPF327F**
ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。
- CPF3273**
ファイルまたはメンバーは、作成、削除または変更されなかった。

上

フォント資源の削除 (DLTFNTRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源削除(DLTFNTRSC)コマンドは、指定したライブラリーからフォント資源を削除します。フォント資源が見つかった場合には、それが削除されます。フォント資源が見つからなかった場合には、フォント資源を見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

フォント資源 (FNTRSC)

削除するフォント資源を指定します。特定のフォント資源または総称フォント資源を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

総称名 削除するフォント資源の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称フォント資源名と同じ接頭部の名前をもつすべてのフォント資源が削除されます。

名前 削除するフォント資源の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フォント資源を削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

上

例

例1:現行ライブラリーのフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC  FNTRSC(*CURLIB/FNTRSC1)
```

このコマンドは、フォント資源FNTRSC1が現行ライブラリーに入っている場合は、これを削除します。

例2:すべてのライブラリーのフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC  FNTRSC(*ALLUSR/FNTRSC1)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーのFNTRSC1という名前のすべてのフォント資源を削除します。Qから始まるライブラリー(QPGLを除く)は検索されません。

例3: FDから始まるフォント資源の削除

```
DLTFNTRSC  FNTRSC(*LIBL/FD*)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストでFDから始まるすべてのフォント資源を削除します。

エラー・メッセージ

なし

フォント・テーブルの削除 (DLTFNTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル削除(DLTFNTTBL)コマンドは、指定されたフォント・テーブルを削除します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)フィーチャーが必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FNTTBL	フォント・テーブル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前, *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

フォント・テーブル (FNTTBL)

削除するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが削除されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが削除されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが削除されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが削除されます。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 印刷装置常駐から印刷装置常駐へのマッピング・テーブルが削除されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを削除する時には、フォント・テーブルの名前を指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

DLTFNTTBL FNTTBL(MYLIB/MYFNTTBL)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBからMYFNTTBLという名前の印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント・マッピング・テーブルを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

書式定義の削除 (DLTFORMDF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

書式定義削除(DLTFORMDF)コマンドは、指定したライブラリーから書式定義を削除します。書式定義が見つかった場合には、それは削除されます。書式定義が見つからなかった場合には、書式定義を見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FORMDF	書式定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 書式定義	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

書式定義 (FORMDF)

削除する書式定義を指定します。特定の書式定義または総称書式定義を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 書式定義

総称名 削除する書式定義の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称書式定義と同じ接頭部の名前をもつすべての書式定義が削除されます。

名前 削除する書式定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

書式定義を削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB   QUSRVI
QGGL       QSRVAGT     QUSRIJS     QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2       QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx  QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F       QUSROND
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF   QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL   QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

上

例

例1:指定の書式定義の最初に現れる文字を削除

```
DLTFORMDF  FORMDF(*LIBL/FORMDF1)
```

このコマンドは、FORMDF1の最初に現れる文字をライブラリー・リストで見つけた場合に削除します。

例2:指定の書式定義のすべてのオカレンスを削除

```
DLTFORMDF  FORMDF(*ALLUSR/FORMDF1)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーのFORMDF1という名前のすべての書式定義を削除します。Qから始まるライブラリー(QGPLライブラリーを除く) が検索されます。

例3: FDから始まる書式定義の削除

```
DLTFORMDF  FORMDF(*USERLIBL/FD*)
```

このコマンドは、すべてのユーザー・ライブラリーにおいてFDから始まるすべての書式定義を削除します。

エラー・メッセージ

なし

フィルターの削除 (DLTFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの削除(DLTFTR)コマンドでは、指定したライブラリーからフィルター・オブジェクトが削除されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

フィルター (FILTER)

削除されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRDB	QUSRVI
QGGL	QSRVAGT	QUSRIJS	QUSRVxRxMx
QGGL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

削除するフィルターの名前を指定してください。

総称*フィルター名

削除するフィルターの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。総称名を指定すると、名前がその総称名で始まり、ユーザーに権限のあるすべてのフィルターが削除されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なフィルター名と見なします。

上

例

```
DLTFTR FILTER(MYLIB/MYFILTER)
```

このコマンドは、フィルターMYFILTERをライブラリーMYLIBから削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

グラフィック・シンボル・セットの削除 (DLTGSS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフィックス・シンボル・セット削除(DLTGSS)コマンドを用いて、1つまたは複数のライブラリーから1つまたは1グループのグラフィックス・シンボル・セットを削除することができます。

制約事項: 削除するグラフィックス・シンボル・セットのオブジェクト存在権をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
GSS	グラフィックス・シンボル・セット	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフィックス・シンボル・セット	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

グラフィックス・シンボル・セット (GSS)

削除するグラフィックス・シンボル・セット (複数も可) の名前およびライブラリーを指定します。特定のグラフィックス・シンボル・セットまたはグラフィックス・シンボル・セットの総称名を指定することができます。いずれのタイプでも任意にライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

グラフィックス・シンボル・セット名

削除するグラフィックス・シンボル・セットの名前を指定してください。

総称*グラフィックス・シンボル・セット名

削除するグラフィックス・シンボル・セットの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が続く文字ストリングで指定できます。

注: GSSパラメーターに総称名を指定した場合には、総称グラフィックス・シンボル・セットと名前の接頭部が同じであるグラフィックス・シンボル・セットがすべて削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、該当するグラフィックス・シンボル・セットを検索します。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQRDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQRPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

使用するライブラリーを指定します。ここで指定するライブラリーに対しては、その操作権限をもっていない限りなりません。

上

例

```
DLTGSS  GSS(ADMUVTIP)
```

このコマンドは、システムからグラフィックス・シンボル・セットADMUVTIPを削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

DBCS変換辞書削除 (DLTIGCDCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書削除(DLTIGCDCT)コマンドによって、指定した2バイト文字セット(DBCS)変換辞書がシステムから削除されます。この辞書には、英数字項目とそれらに関連したDBCSの語句が入っています。システムは、DBCS変換を行なう場合にDBCS変換辞書を参照します。

このコマンドを使用するためには、次の権限が必要です。

- このコマンドに対するオブジェクト操作権
- この辞書に対するオブジェクト操作権およびオブジェクト存在権
- 辞書が保管されているライブラリーに対するオブジェクト操作権

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

削除される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書およびそれが入れられているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

辞書名 削除するDBCS変換辞書を指定してください。

総称*名

削除する辞書のグループを指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングとして指定することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

辞書を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

辞書が入っているライブラリーを指定してください。

上

例

```
DLTIGCDCT  IGCDCDCT(DBCSLIB/IGCDCT*)
```

このコマンドは、システムにライブラリーDBCSLIB中の名前が文字IGCDCTで始まる各DBCS変換辞書を削除させます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

DBCS 分類テーブル削除 (DLTIGCSRT)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DLTIGCSRT (DBCS 分類テーブル削除) コマンドは、DBCS 分類テーブル (オブジェクト・タイプ *IGCSRT) をシステムから削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IGCSRT	DBCS 分類テーブル	修飾子リスト	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS 分類テーブル	名前	

上

DBCS 分類テーブル (IGCSRT)

DBCS 分類テーブル・オブジェクトの名前を指定します。このテーブルは、ライブラリー QSYS に存在していなければなりません。

使用できる値は、次の通りです。

テーブル名

DBCS 分類テーブル・オブジェクトの名前。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

不明

上

DBCSフォント・テーブルの削除 (DLTIGCTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCSフォント・テーブル削除(DLTIGCTBL)コマンドにより、指定したDBCSフォント・テーブルがシステムから削除されます。DBCSフォント・テーブルにはシステムで使用される外字のイメージが入っていて、装置で使用されるマトリックスに応じて各種のマトリックス・サイズで文字を表示および印刷するために使用されます。システムで使用されないドット・マトリックス・パターンで文字を表示および印刷するテーブルの削除を検討してください。テーブルを削除すると、システム記憶域が節減されます。テーブルを削除する前に、将来の使用に備えてテープまたはディスクにコピーしておくことも考慮してください。テーブルをテープまたはディスクにコピーするためには、DBCSフォント・テーブル・コピー(CPYIGCTBL)コマンドを参照してください。

追加の考慮事項:

システムに接続され現在オンに構成変更されている装置が使用している漢字フォント・テーブルは、削除しないでください。そのようなテーブルを削除すると、システムから次のものを識別するメッセージが送られてきます。

- 削除されたテーブルを使用している装置
- 削除しようとしているテーブルを使用している装置と同じ制御装置に接続されている装置
- 次回にそれらの装置で外字を印刷または表示しようとした時に損傷する制御装置

このような問題が起こった場合には、次のようにしてください。

1. 影響を受ける装置をオフに構成変更する (VRYCFGコマンド)。
2. 影響を受ける制御装置をオフに構成変更する。
3. 影響を受ける制御装置をオンに構成変更する。
4. 影響を受ける装置をオンに構成変更する。
5. 通常システム作業を続行する。

たとえば、日本語5555表示装置がオンに構成変更されている時には、QIGC2424 を削除しないでください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IGCTBL	DBCSフォント・テーブル	名前, QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	オプション, 定位置 1

上

DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)

削除される2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの名前を指定します。

QIGC2424

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGC2424C

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語DBCS フォント・テーブルが削除されます。

QIGC2424K

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される韓国語DBCS フォント・テーブルが削除されます。

QIGC2424S

24 X 24ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語（簡体字）DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGC3232

32 X 32ドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語（簡体字）DBCSフォント・テーブルが削除されます。

QIGCRRCCCL

削除するDBCSフォント・テーブルの名前を指定してください。名前は常にQIGCRRCCCLという形式になっていなければなりません。*RR*はテーブル行のマトリックス・サイズ、*CC*はテーブル列のマトリックス・サイズ、*L*は任意選択の言語識別コードを示します。

上

例

DLTIGCTBL IGCTBL(QIGC2424)

このコマンドは、日本語DBCSフォント・テーブルQIGC2424を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8422

漢字フォント・テーブル&1を使用することはできない。

CPF8425

メッセージ&1で取り消し応答を受け取った。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

イメージ・カタログの削除 (DLTIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ削除(DLTIMGCLG)コマンドは、イメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)をライブラリーQUSRSYSから削除して、関連付けられたイメージ・ファイルを任意に削除するために使用します。イメージ・ファイルは、イメージ・カタログ作成(CRTIMGCLG)コマンドに指定されたディレクトリーにあります。

制約事項:

- イメージ・カタログを削除するには、次の権限が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - イメージ・カタログに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限。
 - イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
KEEP	イメージ・ファイルの保持	*YES, *NO	オプション
DEPIMGCLG	従属イメージ・カタログ	*NODELETE, *DELETE	オプション

上

イメージ・カタログ (IMGCLG)

削除するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

イメージ・ファイルの保持 (KEEP)

イメージ・カタログと関連したイメージ・ファイルを保持するかどうかを指定します。

***YES** イメージ・カタログと関連したイメージは削除されません。

***NO** イメージ・カタログと関連したイメージは、イメージ・ファイルを含むディレクトリーから削除されます。すべてのイメージ・ファイルの削除後、イメージ・カタログと関連したディレクトリーの削除が試みられます。

従属イメージ・カタログ (DEPIMGCLG)

すべての従属イメージ・カタログを削除するかどうかを指定します。

*NODELETE

すべての従属カタログが削除されません。

*DELETE

すべての従属カタログが削除されます。

例

例1: イメージ・カタログを削除

```
DLTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**から削除し、関連イメージ・ファイルをそのままにします。

例2: イメージ・カタログおよびすべての従属カタログの削除

```
DLTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) KEEP(*NO) DEPIMGCLG(*DELETE)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**、すべての従属カタログ、およびすべての関連イメージ・ファイルを削除します。

例3: イメージ・カタログおよび関連イメージ・ファイルの削除

```
DLTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) KEEP(*NO)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**およびすべての関連イメージ・ファイルをライブラリー**QUSRSYS**から削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC18

イメージ・カタログ&1が削除されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

IPX記述削除 (DLTIPXD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPX記述削除(DLTIPXD)コマンドはIPX記述を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IPXD	IPX記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: IPX記述	総称名, 名前	

上

IPX記述 (IPXD)

削除されるIPX記述の名前を指定します。

IPX記述名

削除するIPX記述の名前を指定してください。

総称 *IPX記述名

IPX記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (例えば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

これは必須パラメーターです。

上

例

DLTIPXD IPXD(IPXDESC)

このコマンドは、IPXDESCという名前のIPX記述をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26C2

活動IPX記述&1を変更または削除できない。

上

ジョブ記述削除 (DLTJOBBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述削除 (DLTJOBBD)コマンドは、指定されたジョブ記述をシステムから削除します。すでに処理中のジョブはこのコマンドの影響を受けません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 削除するジョブ記述に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびそのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOBBD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ジョブ記述 (JOBBD)

削除するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。特定のジョブ記述または総称ジョブ記述を指定することができ、いずれの場合もライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

総称名 削除されるジョブ記述の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称ジョブ記述と同じ接頭部を持つ名前のすべてのジョブ記述が削除されます。

名前 削除するジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***ALL** 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTJOBDB  JOB(MYLIB/MYJOBDB)
```

このコマンドは、MYJOBDBという名前のジョブ記述をライブラリーMYLIBから削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

ジョブ待ち行列削除 (DLTJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列削除(DLTJOBQ)コマンドは、指定されたジョブ待ち行列をシステムから削除します。

制約事項

- 削除するジョブ待ち行列に項目が入ってはいけません。待ち行列上のすべてのジョブが完了しているか、削除されているか、あるいは別のジョブ待ち行列に移動されていなければなりません。
- サブシステムをジョブ待ち行列に対して活動状態にすることはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

削除するジョブ待ち行列を指定します。特定のジョブ待ち行列または総称ジョブ待ち行列を指定することができます。いずれのタイプの場合も、任意にライブラリー名によって修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

総称名 削除するジョブ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、'AR*'などのように1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称ジョブ待ち行列名と同じ接頭部の名前を持つすべてのジョブ待ち行列が削除されます。削除するジョブ待ち行列が検索されるライブラリーは、指定するか、あるいは省略時の値として使用されるライブラリー修飾子によって決まります。

名前 削除するジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT     QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2       QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx  QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F       QUSROND
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF   QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL   QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPIが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTJOBQ  JOBQ(SPECIALJQ)
```

このコマンドは、ジョブ待ち行列SPECIALJQをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3324

&2のジョブ待ち行列&1は削除されなかった。ジョブ待ち行列は使用中です。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

上

ジャーナル削除 (DLTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル削除(DLTJRN)コマンドにより、システムから指定された1つまたは複数のジャーナルが削除されます。

制約事項:

- このコマンドが出された時に、オブジェクトは指定されたジャーナルにジャーナル処理することができず、このジャーナルをコミットメント制御に使用したどのジョブもそのまま活動状態にしておくことができません。どのオブジェクトがジャーナル処理されているかどうか判別するためには、ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを出してください。
 - いくつかのオブジェクトがジャーナル処理されている場合には、アクセス・パス・ジャーナル処理終了(ENDJRNAP)、ジャーナル処理終了(ENDJRN)、オブジェクトのジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)、および物理ファイルのジャーナル処理終了(ENDJRNPF)コマンドを出してジャーナル処理を終了してください。
 - このジャーナルをコミットメント制御用に使用したジョブでまだ活動状態のものがある場合には、活動状態の各ジョブごとにジョブ終了(ENDJOB)コマンドを出してください。
- ジャーナルが活動状態でそのソース・ジャーナルからジャーナル項目を受け取り中であるか、あるいはジャーナル項目を別のリモート・ジャーナルに複写中である場合には、そのジャーナルを削除することはできません。ジャーナルのリモート・ジャーナル処理情報を判別するためには、ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを使用してください。リモート・ジャーナル処理の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ジャーナル (JRN)

削除される1つまたは複数のジャーナル名およびライブラリーを指定します。特定のジャーナル名または総称ジャーナル名を指定することができ、いずれのタイプのジャーナル名も、ライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

削除されるジャーナルの名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBLまたは*USRLIBLが指定されている場合には、この名前で見つかった最初のジャーナルだけが削除されます。ライブラリー名として*ALLUSRまたは*ALLが指定された場合には、指定した名前別にジャーナル・オブジェクトを複数のライブラリーから削除することができます。

総称*ジャーナル名

削除されるジャーナルの総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えばABC*など）として指定できます。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB   QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
```

QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

DLTJRN JRN(MYLIB/JRNLA)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのJRNLAという名前のジャーナルをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2153

ライブラリーQSYSのジャーナルQAUDJRNは削除されない。

CPF2154

タイプ権限ホルダーのオブジェクトを表示することができません。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF70EA

&2のジャーナル&1は削除できない。

CPF70E1

&2のジャーナル&1は削除できない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF7021

&2のジャーナル&1は削除できない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

上

ジャーナル・レシーバー削除 (DLTJRNRVCV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー削除(DLTJRNRVCV)コマンドは、指定されたジャーナル・レシーバーをシステムから削除し、そのジャーナル・レシーバーに割り振られた記憶スペースを解放します。 出口点 QIBM_QJO_DLT_JRNRVCVはDLTJRNRVCVコマンド用に用意されています。 詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPI トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを出す時には、ジャーナル・レシーバーがジャーナルに接続されてはいけません。
- リモート・ジャーナルに接続されたジャーナル・レシーバーを削除しようとして、そのリモート・ジャーナルが活動状態でジャーナル項目を受け取っていないか、あるいはジャーナル項目を複製していて、DLTOPT(*IGNINQMSG)が指定されていない場合には、照会メッセージ(CPA705E)が要求元のワークステーションに送られます。この要求がバッチ・ジョブから行われた場合には、メッセージはシステム操作員に送られます。この照会メッセージには自動的に応答することができます。詳細については、ジョブ記述作成(CRTJOB)コマンドのINQMSGRPYパラメーターを参照してください。
- ジャーナル・レシーバーは、損傷がない場合、あるいはその二重レシーバーが損傷している場合は、オンライン・レシーバーの連鎖の中間にあってはなりません。(レシーバーの範囲内でギャップが生じないようにするために、レシーバーは切り離れた順序と同じ順序で削除しなければなりません。)
- 保管が済んでいないジャーナル・レシーバーを削除しようとして、DLTOPT(*IGNINQMSG)が指定されていない場合には、照会メッセージ(CPA7025)が要求元のワークステーションに送られます。この要求がバッチ・ジョブから行われた場合には、メッセージはシステム操作員に送られます。この照会メッセージには自動的に応答することができます。詳細については、ジョブ記述作成(CRTJOB)コマンドのINQMSGRPYパラメーターを参照してください。
- *IGNEXITPGM特殊値を指定するためには、*ALLOBJ権限および*SECADM権限が必要です。
- 出口プログラムが出口点QIBM_QJO_DLT_JRNRVCVに次のように登録されている場合には、このコマンドは条件付きでスレッド・セーフになります。
 - 出口プログラムが登録されていない場合、あるいはDLTOPT(*IGNEXITPGM)が指定されている場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。
 - すべての出口プログラムがスレッド・セーフであり、マルチスレッド・ジョブで実行されるように登録されている場合には、コマンドはスレッド・セーフです。
 - マルチスレッド・ジョブで実行されるように登録されていない出口プログラムをマルチスレッド・ジョブで実行しようとすると、コマンドは失敗し、ジャーナル・レシーバーは削除されません。

ADDEXITPGMコマンドにMLTTHDACNパラメーターを使用して、出口プログラムがマルチスレッド・ジョブで実行可能であるかどうかを指定してください。詳細については、ADDEXITPGMコマンドを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRNRVCV	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
DLTOPT	オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *IGNINQMSG, *IGNEXITPGM, *IGNTGTRCV	オプション

上

ジャーナル・レシーバー (JRNRVCV)

削除されるジャーナル・レシーバー(1つまたは複数) の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

ジャーナル・レシーバー名

削除されるジャーナル・レシーバー名およびライブラリーを指定します。ライブラリー名として *LIBLまたは*USRLIBLが指定されている場合には、この名前で見つかった最初のジャーナル・レシーバーだけが削除されます。ライブラリー名として*ALLUSRまたは*ALLが指定された場合には、指定した名前別にジャーナル・レシーバー・オブジェクトを複数のライブラリーから削除することができます。

総称*ジャーナル・レシーバー名

削除しているジャーナル・レシーバーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (例えば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2      QUSRINFSCR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む)が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オプション (DLTOPT)

ジャーナル・レシーバーが削除される前に追加の検査を実行するかどうかを指定します。

*NONE

ジャーナル・レシーバー削除は、ジャーナル・レシーバーが削除される前に実行される保護検査のどれも無視しないで試みられます。

*IGNTGTRCV

ターゲット・システムでただちにダウンストリームとなる、このジャーナルと対応したリモート・ジャーナルがすべてこのジャーナル・レシーバーの完全なコピーを持っているかを検査しません。削除操作は、リモート・ジャーナルのどれかが完全なコピーを持っていない場合でも続行されます。ジャーナル・レシーバーに対するこの保護が適用されるのは、リモート・ジャーナル除去(QJOREMOVEREMOTEJOURNAL) APIを使用して除去されるまで、あるいはジャーナルが除去されるまで、最初にリモート・ジャーナルがリモート・ジャーナル追加(QJOADDREMOTEJOURNAL) APIを使用して追加された場合だけです。APIの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

*IGNINQMSG

照会メッセージを無視します。照会メッセージCPA7025は、このレシーバーが完全に保管されてい

ない場合（例えば、レシーバーが切り離された後の保管など）でもユーザーに表示されません。
また、照会メッセージCPA705Eは、レシーバーがリモート・ジャーナルに接続されている場合でもユーザーに表示されません。削除操作は続行されます。

***IGNEXITPGM**

ユーザー出口プログラムを無視します。このジャーナル・レシーバーを削除することができるかどうかに関する判断には、出口点QIBM_QJO_DLT_JRNRCVに登録済みのユーザー出口プログラムはどれも呼び出されず、それに含まれることもありません。

上

例

DLTJRNRCV JRNRCV(MYLIB/JRNRCLA)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのジャーナル・レシーバーJRNRCLAをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF70ED

出口プログラムのためにレシーバーは削除されなかった。理由コードは&7です。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF7022

接続中にジャーナル・レシーバー&1を削除することはできない。

CPF7023

&2のジャーナル・レシーバー&1を削除することはできない。

CPF7024

&2のレシーバー&1は削除されなかった。理由コードは&3です。

CPF7025

&2のレシーバー&1の削除は取り消された。

CPF705B

OPTION(*IGNEXITPGM)を指定する権限がない。

CPF705E

&2のレシーバー&1の削除は取り消された。

CPF705F

レシーバーが&8個のリモート・ジャーナルに複製されていません。

CPF707C

理由コード&5のためにジャーナル・レシーバー&1は削除できない。

CPF707D

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1は削除されなかった。

CPF707E

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1は削除されなかった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

上

JAVAプログラムの削除 (DLTJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム削除(DLTJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルと関連したJAVAプログラムを削除します。

JAVAプログラムが指定されたファイルと関連していない場合には、通知メッセージJVAB526が送られ、コマンド処理は続行されます。

制約事項:ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません: QOPENSYS,"ROOT", またはユーザー定義ファイル・システム。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション

上

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

関連したJAVAプログラムを削除する元になるクラス・ファイル名を指定します。クラス・ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイル (1つまたは複数) を識別するクラス・ファイルの名前またはパターンを指定してください。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたクラス・ファイル名の例は、'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'です。パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASS*.CLASS'です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイル (1つまたは複数) を識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名前またはパターンを指定してください。ファイル名が'.JAR'または'.ZIP'で終わっていると、ファイルはJARファイルであると見なされます。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたJARファイル名の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'です。パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPP*.ZIP'です。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

CLSFキーワードと一致するファイルを探そうとするときにディレクトリー・サブツリーを処理するかどうかを指定します。

*NONE

オブジェクト名のパターンと一致するファイルのみを処理します。サブツリーは処理されません。ディレクトリーにサブディレクトリーが含まれている場合には、サブディレクトリーもサブディレクトリー内のオブジェクトも処理されません。

***ALL** CLSFパラメーターで指定された名前と一致するファイルのJAVAプログラムを作成するために、CLSFに指定されたパスのサブツリー全体が処理されます。

例

```
DLTJVAPGM CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
```

このコマンドは、クラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けたJAVAプログラムを削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB526

"&1"に対するJAVAプログラムを削除することができません。

JVAB527

&1のJAVAプログラムが削除された。&2のJAVAプログラムは削除されていません。

JVAB535

監視されていない例外を受け取った。

信任状キャッシュ・ファイルの削除 (DLTKRBCCF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

信任状キャッシュ・ファイルの削除 (DLTKRBCCF)コマンドは、Kerberos信任状キャッシュ・ファイルの削除に使用されます。

制約事項:

ネットワーク認証サービスのコマンドおよびAPIは、大部分のEBCDIC CCSIDのジョブ環境に対応していません。CCSID 290および5026については、小文字aからzが一致しないため、サポートされません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CCF	信任状キャッシュ・ファイル	パス名, *DFT, *EXPIRED	オプション, 定位置 1
EXPTIME	満了時間	整数, 0	オプション

上

信任状キャッシュ・ファイル (CCF)

削除するKerberos信任状キャッシュ・ファイルを指定します。

***DFT** 現行ユーザーの省略時の信任状キャッシュ・ファイルが使用されます。KRB5CCNAME環境変数が設定されている場合は、これが省略時のキャッシュの名前になります。そうでない場合、名前は `_EUV_SEC_KRB5CCNAME_FILE`環境変数によって指定されたファイルから取得されます。この環境変数が設定されていない場合、名前はHOMEディレクトリーのkrb5ccnameから取得されます。このファイルが存在しない場合、あるいはこのファイルに省略時の信任状キャッシュ名が設定されていない場合は、新しい信任状キャッシュ・ファイルが作成されます。

*EXPIRED

満了時間 (EXPTIME)パラメーターに指定された値を超えて有効期限切れ状態になっていた期限切れチケットを含むすべての信任状キャッシュ・ファイルが削除されます。

パス名 削除する信任状キャッシュ・ファイルとしてのストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

満了時間 (EXPTIME)

期限切れチケットが少なくとも満了時刻の値で有効期限切れになった場合に、その期限切れチケットを含むすべての信任状キャッシュ・ファイルが削除されるように指定します。

注: このパラメーターは、**信任状キャッシュ・ファイル (CCF)**パラメーターに*EXPIRED以外の値が指定された場合は、無視されます。

0 全てのチケットが削除されます。これらのチケットは、有効期限切れになった直後か、あるいは有効期限切れになってからある程度の時間が経過した可能性があります。

整数 信任状ファイルのすべてのチケットを有効期限切れにする最小分数を指定します。チケットが期限切れになっていない場合、あるいは指定した分数より前に期限切れになった場合、信任状キャッシュ・ファイルは削除されません。

上

例

例1:省略時の信任状キャッシュ・ファイルの削除

```
DLTKRBCCF CCF(*DFT)
```

このコマンドは、省略時の信任状キャッシュを削除します。

例2:有効期限切れチケットのみを含んだ信任状キャッシュ・ファイルの削除

```
DLTKRBCCF CCF(*EXPIRED) EXPTIME(150)
```

このコマンドは、少なくとも150分(2時間30分)前に有効期限切れになったチケットを含むすべての信任状キャッシュ・ファイルを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFC608

省略時の信任状キャッシュ・ファイル名を獲得できません。

CPFC609

信任状キャッシュ・ファイル&1からプリンシパルを取得できません。

CPFC612

信任状キャッシュ&1を削除できません。

CPFC613

信任状キャッシュ・ディレクトリーを読み取ることができません。

CPFC614

信任状キャッシュ&1からチケットを取得できません。

上

ライブラリー削除 (DLTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー削除(DLTLIB)コマンドでは、指定したライブラリーの中のすべてのオブジェクトを削除してから、そのライブラリーをシステムから削除します。削除されるライブラリーにオブジェクトが入っている場合は、このコマンドはまずオブジェクトをすべて削除してから、ライブラリーを削除します。

ライブラリー内のすべてのオブジェクトを削除する権限がない場合には、権限のあるオブジェクトだけが削除されます。この場合には、ライブラリーおよびライブラリーの中のその他のオブジェクトは、いずれも変更されないまま残ります。ライブラリー中のオブジェクトが使用中である（別のスレッドまたはジョブによってロックされている）場合には、そのオブジェクトは削除できません。

ライブラリーが損傷している場合には、損傷を解消しないで、削除することはしないでください。ほとんどの場合、初期プログラム・ロード(IPL)手順を開始してユーザー・ライブラリー (QGPLライブラリーを含む) を再作成することにより、損傷を解決できます。それでもまだ損傷がある場合には、ライブラリーを削除してください。損傷したライブラリーの代わりにそのライブラリーの保管済みバージョンを復元するか、またはそのライブラリーを再作成することができます。

削除しているライブラリーを現在ジャーナル処理している場合には、変更を記録するジャーナルに項目が書き込まれます。

ライブラリー記述の表示(DSPLIBD)コマンドを使用して、ライブラリーのジャーナル情報を表示してください。ライブラリーのジャーナル処理の詳細については、ライブラリーのジャーナル開始(STRJRNLIB)コマンドを参照してください。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

1. ライブラリーを削除するためには、指定したライブラリーに対する使用(*USE)およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびそこに入っているすべてのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。ライブラリーに対する*OBJEXIST権限がない場合には、何も削除されません。ライブラリー内の1つまたは複数のオブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、それらのオブジェクトおよびライブラリーは削除されません。
2. ライブラリーが現行スレッドのライブラリー・リスト内にある場合には、そのライブラリーを削除することはできません。
3. システムで活動状態である1次スレッドのライブラリー・リストにライブラリーが入っている場合には、QLIBLCKLVLシステム値がそのライブラリー・リスト内のライブラリーをロックするように設定されていると、そのライブラリーは削除できません。
4. このコマンドは、以下のライブラリーの削除には使用できません（ここで'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号、'NNNN'は基本ユーザーASPあるいは1次または2次ASPの番号です）。
 - QQALIB
 - QRECOVERYまたはQRCYXXXXX

- QSPLまたはQSPLnnnn
 - QSYSまたはQSYSXXXXXX
 - QSYSCGI
 - QSYS2またはQSYS2XXXXXX
 - QTEMP
 - SYSIBMまたはSYSIBXXXXXX
 - SYSIBMADM
 - SYSPROC
 - SYSTOOLS
5. QDOCライブラリーは、削除されると、次回のIPL時にもう一度作成されます。
6. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。 次の制約事項が適用されます。
- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション

上

ライブラリー (LIB)

削除されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除されるライブラリーの名前を指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

削除されるライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。 このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でない場合には、必ず正しいライブラリーがライブラリー削除操作のターゲットになるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。

- * 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。 これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32),およびASPグループ内のすべての1次および2次ASP (スレッドがASPグループを持っている場合) が含まれます。

*CURASGRP

スレッドがASPグループをもっている場合には、そのASPグループ内にある1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドがASPグループを持っていても、1次および2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する*USE権限が必要です。

上

例

例1:ライブラリーの削除

DLTLIB LIB(W)

このコマンドは、ライブラリーWをそのすべてのオブジェクトが削除された後で削除します。ライブラリーWにオブジェクトがあり、そのすべてのオブジェクトを削除する権限がある場合には、ライブラリーWおよびそのすべてのオブジェクトが削除されます。すべてのオブジェクトを削除する権限がない場合には、権限のあるオブジェクトだけが削除され、ライブラリーは削除されません。

例2:独立補助記憶域プール(ASP)中のライブラリーの削除

DLTLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)

このコマンドは、SALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP)にあるライブラリーINVENTORYをそのすべてのオブジェクトが削除された後で削除します。SALES ASPは活動化されて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、状況が「使用可能」になっていなければなりません。ライブラリーINVENTORYにオブジェクトがあり、そのすべてのオブジェクトを削除する権限がある場合には、ライブラリーINVENTORYおよびそのすべてのオブジェクトが削除されます。すべてのオブジェクトを削除する権限がない場合には、権限のあるオブジェクトだけが削除され、ライブラリーは削除されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF210D

ライブラリー&1は使用中である。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2129

システム・ライブラリー&1の消去または削除が取り消された。

CPF2161

ライブラリー&1の一部のオブジェクトを削除することができない。

CPF2166

ライブラリー名&1は無効である。

CPF2167

ライブラリー&1は、ライブラリー・リストに入っているため、削除することができない。

CPF2168

ライブラリー&1は削除されなかった。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

上

ライセンス・プログラムの削除 (DLTLICPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・プログラム削除(DLTLICPGM)コマンドは、ライセンス・プログラムを構成するオブジェクトを削除するために使用されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限をもっているか、あるいは機密保護担当者から受ける特定権限をもっていなければなりません。
3. ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている場合にだけ、いくつかのライセンス・プログラムを削除することができます。この制約の説明については、それぞれのライセンス・プログラムの資料を参照してください。
4. ライセンス・プログラム5761SS1 *BASE (オペレーティング・システム) および5761SS1オプション1 (拡張基本サポート) およびオプション3 (拡張基本ディレクトリー・サポート) は、削除することができません。
5. オペレーティング・システムの2次言語ライブラリーを削除するためには、LICPGMメニューおよびオペレーティング・システムのオプション1および3を使用しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
OPTION	削除する任意選択部分	*ALL, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY, *ALL	オプション
LNG	ライセンス・プログラムの言語	文字値, *ALL	オプション

上

プロダクト (LICPGM)

削除されるライセンス・プログラムの7桁のIDを指定します。ユーザーは、削除するライセンス・プログラムを1つしか選択できません。

これは必須パラメーターです。

上

削除する任意選択部分 (OPTION)

プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター) に指定されたライセンス・プログラムのどの部分が削除されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター) にリストされたライセンス・プログラムと関連したすべての部分（任意選択部分および基本部分の両方）が削除されます。

注: ライセンス・プログラム5761SS1を指定した場合には、オプション1および3を除く任意選択部分だけが削除されます。その他のライセンス・プログラムを指定した場合には、すべての部分が削除されます。

任意選択部分番号

削除したいリストされたライセンス・プログラムの任意選択部分と対応する番号を指定してください。

上

リリース (RLS)

ライセンス・プログラムで削除するバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

ライセンス・プログラム・オプションに導入されたバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを削除します。

***ALL** ライセンス・プログラムに導入されたすべてのバージョンを削除します。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

ライセンス・プログラムの言語 (LNG)

LICPGMパラメーターに指定されたライセンス・プログラムで削除される各国語バージョン(NLV)オブジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** LICPGM, OPTION,およびRLSパラメーターに指定されたライセンス・プログラムのすべてのNLVオブジェクトおよびプログラム・オブジェクトが削除されます。

機能コード

削除される各国語バージョン(NLV) IDを指定してください。指定したNLVだけが削除されます。ライセンス・プログラムのプログラム・オブジェクトは削除されません。弊社提供の言語機能コードはINSTALL, UPGRADE, OR DELETE I5/OS AND RELATED SOFTWARE BOOK (SC41-5120) にリストされているか、またはGO LICPGM,オプション20を使用して表示することができます。

上

例

例1:すべてのライセンス・プログラム・オブジェクトの削除

```
DLTLICPGM LICPGM(5761QU1)
```

このコマンドは、5761QU1ライセンス・プログラムに関連したすべてのオブジェクトを削除します。

例2:特定のライセンス・プログラム・オブジェクトの削除

```
DLTLICPGM LICPGM(5761QU1) LNG(2929)
```

このコマンドは、ライセンス・プログラム5761QU1のすべてのオプションでドイツ語版(NLV 2929)オブジェクトのみを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3875

ライセンス・プログラム&1オプション&2は削除されなかった。

上

回線記述の削除 (DLTLIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の削除(DLTLIND)コマンドは、指定された回線記述を削除します。回線記述は、これを削除するためにこのコマンドが出される前に、オフラインに構成変更されなければなりません。

注: フレーム・リレー・ネットワーク・インターフェースに接続されている回線を削除している場合には、ネットワーク・インターフェース(NWI)をオフラインに切り替えなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

回線記述 (LIND)

削除する1つまたは複数の回線記述の名前を指定します。特定の回線記述または総称の回線記述を指定することができます。

名前 削除したい回線記述の名前を指定してください。

総称名 削除する回線記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

上

例

DLTLIND LIND(LINE01)

このコマンドは、LINE01という名前の回線の回線記述をシステムから削除します。

削除される回線記述に関連の制御装置記述がある場合には、それらが切り離され、その制御装置名を示すメッセージがシステム操作員に送られます。切り離された制御装置記述は、その名前が回線記述作成コマンドに指定されれば新しい回線記述に関連付けられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF26AB

回線&1はオンに構成変更中に削除することはできない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2627

制御装置記述は前に削除されている。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2668

オブジェクト記述は削除されなかった。

上

LINUXサーバーの削除 (DLTLNXSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LINUXサーバーの削除 (DLTLNXSVR)コマンドは、指定されたLINUXネットワーク・サーバー記述およびLINUXサーバーの導入 (INSLNXSVR)コマンドによって作成した関連オブジェクトをすべて削除します。これらの関連オブジェクトには、回線記述、TCP/IPインターフェース、サーバー記憶スペース、およびLINUXサーバー導入(INSLNXSVR)コマンドによって作成されたシステム作成のネットワーク・サーバー記憶スペースがあります。DLTLNXSVRコマンドを出す前に、ネットワーク・サーバーをオフに構成変更しなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)

削除するネットワーク・サーバー記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 削除するネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。ネットワーク・サーバー記述名は最大8文字とすることができます。

上

例

DLTLNXSVR NWSD(RHEL3MAR)

このコマンドはLINUXサーバーRHEL3MARと、その関連のすべてのオブジェクトを削除します。これにはネットワーク・サーバー記述(*NWSD)オブジェクト、回線記述(*LIND)オブジェクト、およびRHEL3MAR1およびRHEL3MAR2の名前の2つのネットワーク・サーバー記憶スペース(*NWSSTG)オブジェクトも含まれます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

NTA1004

&2コマンドには&3特殊権限が必要です。

CPFA473

ネットワーク・サーバー&1はオフに構成変更しなければならない。

CPF26AE

ネットワーク・サーバー記述&1が見つからない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

ロケール削除 (DLTLOCALE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロケール削除(DLTLOCALE)コマンドは指定されたロケールを削除します。

ロケールの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/ISERIES/INFOCENTER))にある「グローバル化」情報を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LOCALE	ロケール名	パス名	必須, 定位置 1

上

ロケール名 (LOCALE)

削除されるロケールのパス名を指定します。

上

例

```
DLTLOCALE LOCALE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/USLOCALE.LOCALE')
```

このコマンドは、MYLIBライブラリー中のUSLOCALEという名前のロケールをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

媒体定義の削除 (DLTMEDDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体定義削除(DLTMEDDFN)コマンドは、指定された媒体定義をシステムから削除します。

制約事項:

- 媒体定義に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、媒体定義が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 媒体定義	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

媒体定義 (MEDDFN)

削除する媒体定義を指定します。

修飾子1: 媒体定義

総称名 削除する媒体定義の総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称媒体定義名と同じ接頭部をもつ名前のすべての媒体定義が削除されます。

名前 削除する媒体定義の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、削除する媒体定義を見つけるためにQGPLが使用されます。

*USRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定の媒体定義名が指定された(総称名の代りに)場合には、その名前で最初に見つかった媒体定義だけが削除されます。

*ALL QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 媒体定義が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTMEDDFN  MEDDFN(LIBA/MEDDFNA)
```

このコマンドは、LIBAという名前のライブラリーのMEDDFNAという名前の媒体定義をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

管理コレクションの削除 (DLTMGTCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理収集削除(DLTMGTCOL)コマンドは、システムから管理収集オブジェクトを削除します。このコマンドを入力するユーザーは、削除する管理収集オブジェクトに対する*OBJEXIST権限および*USE権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MGTCOL	管理コレクション	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 管理コレクション	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

管理コレクション (MGTCOL)

削除する管理収集オブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。特定または総称の管理収集オブジェクトを指定することができます。どちらのタイプもライブラリーで任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー空間の値は次の通りです。

管理収集オブジェクト名

削除される管理収集オブジェクトの名前を指定してください。

総称*管理収集オブジェクト名

管理収集オブジェクトの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。総称名が指定されている場合には、名前が総称名で始まっていてユーザーが権限を持っているすべての管理収集オブジェクトが削除されます。

上

例

```
DLTMGTCOL  MGTCOL(MYLIB/Q099365001)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBからQ099365001という名前の管理収集オブジェクトを削除します。

上

エラー・メッセージ

不明

上

メニュー削除 (DLTMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー削除(DLTMNU)コマンドは、指定されたメニューをシステムから削除します。

注: このコマンドによって、表示装置ファイル(*DSPF)メニューに関連した表示装置ファイルおよびメッセージ・ファイルを削除するか、あるいはプログラム(*PGM)メニューに関連したプログラムを削除することもできます。

制約事項:

- メニューに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限と、メニューが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
DLTREFOBJ	参照されたオブジェクトの削除	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *DSPF, *MSGF, *PGM	オプション

上

メニュー (MENU)

削除する1つまたは複数のメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

総称名 削除するメニューの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、その総称メニュー名と同じ接頭部の名前を持つすべてのメニューが削除されます。

名前 削除するメニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む)が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

参照されたオブジェクトの削除 (DLTREFOBJ)

メニューによって参照される表示装置ファイル、メッセージ・ファイル、またはプログラム・オブジェクトが削除されることを指定します。TYPE(*DSPF)メニューだけが表示装置ファイルまたはメッセージ・ファイルを参照することができ、TYPE(*PGM)メニューだけがプログラムを参照することができます。

注: メニューに指定された現行ライブラリーおよびプロダクト・ライブラリーは、オブジェクトの検索および削除に使用されません。

単一値

*NONE

メニューによって参照されるオブジェクトはどれも削除されません。

***ALL** メニューによって参照されるすべての表示装置ファイル、メッセージ・ファイル、およびプログラム・オブジェクトが削除されます。

その他の値（最大3個指定可能）

***DSPF** メニューによって参照される表示装置ファイルが削除されます。

***MSGF**

メニューによって参照されるメッセージ・ファイルが削除されます。

***PGM** メニューによって参照されるプログラムが削除されます。

上

例

例1:メニューのみを削除

```
DLTMNU MENU(FINLIB/ARMENU)
```

このコマンドは、名前ARMENUのメニューを名前FINLIBライブラリーから削除します。

例2:画面およびメッセージ・ファイルを削除

```
DLTMNU MENU(EXLIB/TEST) DLTREFOBJ(*DSPF *MSGF)
```

このコマンドは、名前TESTのメニューを名前EXLIBライブラリーから削除します。また、名前TESTのメニューと関連した表示装置ファイルおよびメッセージ・ファイルも削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2107

ライブラリーは消去または削除されなかった。機能チェックが起きました。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

モジュールの削除 (DLTMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュール削除(DLTMOD)コマンドは、コンパイルされたモジュールまたはモジュールのグループを削除します。モジュールがバインド・ディレクトリーと関連している場合には、このモジュールのバインド・ディレクトリー内の項目は、削除の後では無効となります。

制約事項:

- モジュールに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限およびそのモジュールの保管先のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

モジュール (MODULE)

削除するモジュールを指定します。特定のモジュールまたは総称を指定することができます。いずれのタイプも、ライブラリー名を指定して任意に修飾することができます。

注: 特定のライブラリーについてすべてのモジュール・オブジェクトを除去するには、RMVLNK OBJLNK('QSYS.LIB/LIBNAME.LIB/*.MODULE')を使用することができます。ここで、LIBNAMEはすべてのモジュールの削除元のライブラリーの名前です。詳細については、RMVLNKコマンドを参照してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

総称名 削除するモジュールの総称名を指定してください。総称名は1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (例えば、ABC*など) です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のモジュールで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのモジュールが削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なモジュール名と見なします。

名前 削除するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTMOD  MODULE(XYZ/M*)
```

このコマンドは、文字Mで始まっているライブラリーXYZ内のモジュールのすべてを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

上

モード記述削除 (DLTMOOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述削除(DLTMOOD)コマンドは、指定されたモード記述を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODD	モード記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モード記述	総称名, 名前	

上

モード記述 (MODD)

削除する1つまたは複数のモード記述の名前を指定します。特定のモード記述または総称のモード記述を指定することができます。

モード記述名

削除したいモード記述の名前を指定してください。

総称*モード記述名

削除したいモード記述の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

これは必須パラメーターです。

上

例

DLTMOOD MODD(MODE01)

このコマンドは、モード記述MODE01をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

上

メッセージ・ファイル削除 (DLTMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル削除(DLTMSGF)コマンドでは、指定されたメッセージ・ファイルを、ファイルに記憶されているすべてのメッセージ記述を含めて、システムから削除します。このファイルを使用するメッセージが待ち行列上に存在する場合には、それらのメッセージにとって使用可能なメッセージ・テキストはありません。

制約事項:指定されたメッセージ・ファイルを削除するには、そのファイルに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。弊社提供のメッセージ・ファイルであるQCPFMSG (i5/OSメッセージ用) およびライセンス・プログラム・メッセージ・ファイル(QRPGMSGなど)は削除できません(ただし、機密保護担当者によって認可された場合は別です)。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

削除する1つ以上メッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

メッセージ・ファイル名

削除するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

総称*メッセージ・ファイル名

削除するメッセージ・ファイルの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称メッセージ・ファイル名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのメッセージ・ファイルが削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーを指定してください。

上

例

```
DLTMSGF  MSGF(INV)
```

このコマンドは、INVという名前のメッセージ・ファイルを削除します。INVに保管されているすべてのメッセージ記述も除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

メッセージ待ち行列削除 (DLTMSGQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列削除(DLTMSGQ)コマンドでは、指定されたメッセージ待ち行列およびそれらのメッセージ待ち行列の中のすべてのメッセージを削除します。待ち行列の中の応答を必要とするメッセージは、そのメッセージによって指定された省略時の応答を用いて応答されます。メッセージ待ち行列が別のジョブによって使用中である場合は、メッセージ待ち行列は削除できません。

制約事項:

1. メッセージ待ち行列に対する使用(*USE),オブジェクト存在(*OBJEXIST),および削除(*DLT)権限が必要です。
2. メッセージ待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
3. システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)およびワークステーション・メッセージ待ち行列を削除することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MSGQ	MSG 待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: MSG 待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

削除する1つ以上のメッセージ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: MSG 待ち行列

メッセージ待ち行列名

削除するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

総称*メッセージ待ち行列名

削除するメッセージ待ち行列の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称メッセージ待ち行列名と同じ接頭部の付いた名前を持つすべてのメッセージ待ち行列が削除されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPLIB #RPLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRB	QUSRVI
QGGL	QSRVAGT	QUSRIS	QUSRVRxMx
QGGL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーを指定してください。

上

例

DLTMSGQ MSGQ(JONES)

このコマンドは、JONESという名前のメッセージ待ち行列を削除します。JONES待ち行列に保管されているメッセージも除去されます。メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2505

ワークステーション・メッセージ待ち行列を削除することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

ネットワーク・ファイル削除 (DLTNETF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル削除(DLTNETF)コマンドは、到着したネットワーク・ファイルのユーザーの待ち行列からファイル(1つまたは複数)を削除します。機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザーに送信されたファイルでも削除することができます。機密保護担当者以外のユーザーは、自分または自分のグループ・プロファイル宛に送信されるファイルだけを削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	文字値	必須, 定位置 1
MBR	メンバー	文字値, *ONLY, *ALL	オプション, 定位置 2
NBR	ファイル番号	整数, *LAST, *ONLY, *ALL	オプション, 定位置 3
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	オプション

上

ファイル (FILE)

1つまたは複数のメンバーを削除したいネットワーク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

メンバー (MBR)

削除するファイル・メンバーの名前を指定します。

*ONLY

1つのファイル・メンバーだけを削除します。

***ALL** このファイルで使用可能なすべてのファイル・メンバーが削除されます。ここで*ALLを指定した場合には、ファイル番号プロンプト (NBRパラメーター) にも*ALLを指定しなければなりません。

メンバー名

削除するファイル・メンバーの名前を指定してください。ファイルが保管ファイルの場合には、そのファイル・メンバー名を指定することはできません。

ファイル番号 (NBR)

削除されるネットワーク・ファイル・メンバーの番号を指定します。この番号は、ファイル内に同じ名前のメンバーが複数ある時に、削除されるメンバーを識別するために使用されます。

*LAST

ファイルプロンプト (FILEパラメーター) およびメンバープロンプト (MBRパラメーター) で識別されたネットワーク・ファイル・メンバーの最後のコピーが削除されます。ユーザーのシステムに最後に到着したメンバーが、最終ファイル・メンバーとみなされます。

注: ユーザーのシステムに最後に到着したファイル・メンバーが、送信側ユーザーによって送信された最終メンバーにならない場合があります。ネットワークは、個別に送信されたファイルの到着順については保証しません。

*ONLY

指定されたファイル名のファイル・メンバーが1つだけ削除されます。指定された名前のメンバーが複数ある場合には、エスケープ・メッセージが送られ、このコマンドは実行されません。

ALL** ファイルプロンプト (FILEパラメーター) およびメンバープロンプト (MBRパラメーター) で識別されるすべてのメンバーが削除されます。メンバー名が指定された場合には、その名前のすべてのメンバーが削除されます。MBRパラメーターにALL**が指定された場合には、ファイルのすべてのメンバーが削除されます。

番号 削除するファイル・メンバーのネットワーク・ファイル番号を指定してください。

ユーザー (USER)

削除されるファイルの送信先のユーザーを指定します。

*CURRENT

現行のユーザーに送信されるファイルを削除します。

ユーザー名

ファイルが送られた送信先のユーザーの名前を指定してください。機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザーに送信されたファイルでも削除することができます。機密保護担当者以外のユーザーは、自分または自分のグループ・プロファイル宛に送信されるファイルだけを削除することができます。

例

例1: 単一メンバーの削除

```
DLTNETF FILE(APPOINTMNT) MBR(FRIDAY)
```

このコマンドは、ファイルAPPOINTMNTのメンバーFRIDAYを削除します。

例2: ファイルの削除

```
DLTNETF FILE(SCHEDULE) USER(NETUSER1) NBR(708926)
```

このコマンドは、ファイルSCHEDULE,番号708926をユーザーNETUSER1のネットワーク・ファイルから削除します。このコマンドはNETUSER1, NETUSER1グループのメンバー、または機密保護担当者権限をもつユーザーだけが実行します。

例3:メンバーのすべての削除

```
DLTNETF FILE(OLDINFO) MBR(*ALL) NBR(*ALL)
```

このコマンドは、ファイルOLDINFOに使用可能なすべてのメンバー（名前が重複しているすべてのメンバーを含む）を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF8060

指定された選択項目と対応するファイルはない。

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8070

ユーザー&1にはファイルの処理は許可されていない。

CPF8077

同じ名前の複数のファイルが見つかった。前に表示されたメッセージを参照してください。

CPF8081

ファイル&5メンバー&6番号&7はすでに処理されている。

CPF8082

ネットワーク・ファイル&5メンバー&6番号&7を獲得することができなかった。

CPF8083

ネットワーク・ファイルは削除されなかった。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

ノード・グループの削除 (DLTNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループの削除(DLTNODGRP)コマンドは、リレーショナル・データベース・ファイルと関連したノード・グループを削除します。このコマンドは、そのノード・グループに対して作成したファイルには影響しません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ノード・グループ(NODGRP)

削除されるノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

総称名 削除されるノード・グループの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のノード・グループで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのノード・グループが削除されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていない場合には、システムはこれを完全なノード・グループ名と見なします。

名前 削除されるノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPLIB     #RPLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP1)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループを削除しますが、このノード・グループで作成されたファイルはそのまま使用できます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF3166

ノード・グループ&1がライブラリー&2に見つからなかった。

上

ノード・リストの削除 (DLTNODL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト削除(DLTNODL)コマンドによって、ユーザーはノード・リストを指定したライブラリーから削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ノード・リスト (NODL)

削除しているノード・リストの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRDB	QUSRVI
QGPL	QSRVAGT	QUSRISJS	QUSRVxRxMx
QGPL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

削除するノード・リストが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

削除しているノード・リストの名前を指定してください。

総称*ノード・リスト名

削除しているノード・リストの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング(たとえば、ABC*など)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称(接頭部)名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索された場合には、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値が指定された場合にかぎり、複数のオブジェクトを戻すことができます。

上

例

```
DLTNODL NODL(MYLIB/NODL*)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中で名前がNODLで始まるすべてのノード・リストを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

NETBIOS記述の削除 (DLTNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETBIOS記述削除(DLTNTBD)コマンドは、指定されたNETBIOS記述を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NTBD	NETBIOS記述	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: NETBIOS記述	総称名, 名前	

上

NETBIOS記述 (NTBD)

削除するNETBIOS記述の名前を指定します。

NETBIOS記述名

削除するNETBIOS記述の名前を指定してください。

総称*NETBIOS記述名

NETBIOS記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (例えば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

これは必須パラメーターです。

上

例

DLTNTBD NTBD(MYNETBIOS)

このコマンドは、MYNETBIOSという名前のNETBIOS記述をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ネットワーク・インターフェース記述の削除 (DLTNWID)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース記述削除(DLTNWID)コマンドは、指定されたネットワーク・インターフェース記述を削除します。このコマンドを出す前に、ネットワーク・インターフェース記述をオフに構成変更しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

削除するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。特定のネットワーク・インターフェース記述または総称ネットワーク・インターフェース記述を指定しなければなりません。

ネットワーク・インターフェース記述

削除されているネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

総称*ネットワーク・インターフェース記述

削除するネットワーク・インターフェース記述の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。ネットワーク・インターフェースの総称名を指定した場合には、総称ネットワーク・インターフェース記述名と接頭部が同じ名前のすべてのネットワーク・インターフェース記述が削除されます。

上

例

DLTNWID NWID(THISONE)

このコマンドは、THISONEという名前のネットワーク・インターフェースのネットワーク・インターフェース記述をシステムから削除します。

削除されるネットワーク・インターフェース記述に関連の回線記述がある場合には、それらが切り離され、その回線記述名を示すメッセージがシステム操作員に送られます。切り離された回線記述は、その名前がネットワーク・インターフェース記述を作成するコマンドに指定されれば新しいネットワーク・インターフェース記述に関連付けられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF27A4

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF27A9

ネットワーク・インターフェース記述&1はオフに構成変更されていない。

上

NWS構成の削除 (DLTNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NWS構成の削除 (DLTNWSCFG)コマンドは、指定されたネットワーク・サーバー構成および関連する妥当性検査リストを削除します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 削除するネットワーク・サーバー構成に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- IPSECRULE, CHAPAUT, INRCHAPAUT, またはSPCERTIDパラメーターに省略時値以外の値が指定された場合には、ネットワーク・サーバー構成を削除するために機密保護管理者 (*SECADM)特殊権限が必要です。
- 活動ネットワーク・サーバー記述がこのネットワーク・サーバー構成と関連付けられている場合には、このコマンドを実行することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ネットワーク・サーバー構成

総称名 総称ネットワーク・サーバー構成名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 特定のネットワーク・サーバー構成を処理します。

修飾子2: ライブラリー

QUSRSYS

ライブラリーQUSRSYS中のネットワーク・サーバー構成が削除されます。

名前 ライブラリーの名前を指定してください。

上

例

DLTNWSCFG NWSCFG (ADMIN)

このコマンドは、ADMINという名前のネットワーク・サーバー構成および関連する妥当性検査リストを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

ネットワーク・サーバー記述の削除 (DLTNWSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述削除(DLTNWSD)コマンドは、指定されたネットワーク・サーバー記述を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSD	ネットワーク・サーバー 記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)

削除するネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

ネットワーク・サーバー記述名

削除するネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

総称*ネットワーク・サーバー記述名

ネットワーク・サーバー記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

これは必須パラメーターです。

上

例

DLTNWSD NWSD(REMODEL)

このコマンドは、REMODELという名前のネットワーク・サーバー記述をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2668

オブジェクト記述は削除されなかった。

上

NWS記憶スペースの削除 (DLTNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース削除(DLTNWSSTG)コマンドは、既存のネットワーク・サーバーの記憶スペースを削除します。

記憶スペースがネットワーク・サーバー記述にリンクされている場合には、それを削除することはできません。ネットワーク・サーバー記憶リンク除去(RMVNWSSTGL)コマンドを使用してリンクを除去しておかなければ、リンクされた記憶スペースを削除することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

削除するネットワーク・サーバーの記憶スペースを指定します。

上

例

DLTNWSSTG NWSSTG(STGSPACE1)

このコマンドはSTGSPACE1という名前のネットワーク・サーバー記憶スペースを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPDA427

オブジェクト&1は認可されていない。

CPFA437

削除可能な記憶域スペース&1がない。

出力待ち行列削除 (DLTOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列削除(DLTOUTQ)コマンドは、指定された出力待ち行列(1つまたは複数)をシステムから削除します。

制約事項:

- 削除する出力待ち行列にはなにも項目を入れることはできません。各ファイルの出力は印刷されるか、削除されるか、または別の出力待ち行列に移動しなければなりません。
- サブシステムは活動状態であってはなりません。
- 待ち行列はスプール書き出しプログラムで使用中であってはなりません。
- 待ち行列がシステムによって特定の印刷装置用に作成された場合は、それを削除することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

出力待ち行列 (OUTQ)

削除する出力待ち行列を指定します。特定の出力待ち行列または総称出力待ち行列を指定することができます。いずれのタイプの場合も、任意にライブラリー名によって修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

総称名 削除する出力待ち行列の総称名を指定してください。総称名は、'AR*'などのように1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称出力待ち行列名と同じ接頭部の名前を持つすべての出力待ち行列が削除されます。削除する出力待ち行列名を検索されるライブラリーは、指定したか、あるいは省略時の値として使用されるライブラリー修飾子によって決まります。

名前 削除する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB   QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS     QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTOUTQ  OUTQ(PUNCH2)
```

このコマンドは、出力待ち行列PUNCH2をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3360

&2の出力待ち行列&1は削除されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF3467

出力待ち行列&1が削除されてから、再作成された。

CPF3469

出力待ち行列に対する操作は認められない。

上

オーバーレイの削除 (DLTOVL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オーバーレイ削除(DLTOVL)コマンドは、指定したライブラリーからオーバーレイを削除します。オーバーレイが見つかった場合には、それは削除されます。オーバーレイが見つからなかった場合には、オーバーレイを見つけることができなかったということを示すメッセージがユーザーに送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OVL	オーバーレイ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オーバーレイ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

オーバーレイ (OVL)

削除するオーバーレイを指定します。特定のオーバーレイまたは総称オーバーレイを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オーバーレイ

総称名 削除するオーバーレイの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称オーバーレイ名と同じ接頭部の名前をもつすべてのオーバーレイが削除されます。

名前 削除するオーバーレイの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オーバーレイを削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 ライブラリー名を指定してください。 オーバーレイを削除するために、このパラメーターに指定されたライブラリーだけが検索されます。

上

例

例1: すべてのライブラリーのオーバーレイの削除

```
DLTOVL OVL(*ALL/OVL1)
```

このコマンドは、すべてのライブラリーのOVL1という名前のすべてのオーバーレイを削除します（すべてのIBM提供のライブラリーを除く）。

例2: 現行ライブラリーのオーバーレイの削除

```
DLTOVL OVL(*CURLIB/OV*)
```

このコマンドは、現行ライブラリーで「OV」の文字から始まるすべてのオーバーレイを削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

一時変更削除 (DLTOVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

一時変更削除(DLTOVR)コマンドは、呼び出しレベルで前に指定された1つまたは複数のファイル一時変更（メッセージ・ファイルの一時変更を含む）を削除するものです。DLTOVRコマンドで指定した一時変更された各ファイルの場合には、DLTOVRコマンドと同じ呼び出しレベルで指定された一時変更が削除されます。コマンドが対話式に指定された時、あるいはバッチ・ジョブのプログラムの外側で指定された時には、呼び出しレベルのファイル一時変更が削除されます。コマンドがCLプログラムで使用された時には、そのプログラムの呼び出しレベルのファイル一時変更が削除されます。ファイル一時変更は、ファイル一時変更コマンドの結果です。

DLTOVRコマンドは、同じ呼び出しレベルのすべてのファイルのすべてのファイル一時変更あるいは同じ呼び出しレベルの指定されたファイルのファイル一時変更を削除します。コマンドが指定された呼び出しレベルのファイル一時変更だけが削除されます。たとえば、一時変更コマンドを経路指定ステップ中の1つのプログラムで指定し、呼び出される別のプログラムにも一時変更コマンドが含まれている場合には、2番目のプログラムに指定されたDLTOVRコマンドは、そのプログラム内での一時変更だけを削除することができます。DLTOVRコマンドは、そのプログラムが呼び出される前に指定された一時変更コマンドには何も影響しません。削除されたファイル一時変更は、ファイルのその後の使用方法にはまったく影響しません。

制約事項:

- マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、最初のスレッドからしか出すことができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	一時変更されるファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *PRTF	必須, 定位置 1
LVL	呼び出しレベル	*ACTGRPDFN, *, *JOB	オプション

上

一時変更されるファイル (FILE)

ファイル一時変更を削除する呼び出しレベルの一時変更されたファイルの名前を指定します。

単一値

***ALL** このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在しているすべてのファイルの一時変更が削除されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

*PRTF

このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在している*PRTFファイルの一時変更が削除されます。

名前 呼び出しレベルに存在する一時変更を削除する1つまたは複数の一時変更されているファイルの名前を指定してください。

上

呼び出しレベル (LVL)

削除されるファイル一時変更の呼び出しレベルを指定します。ジョブ処理(WRKJOB)コマンドから呼び出しスタック上に示された呼び出しスタック項目と、その呼び出しスタック項目の呼び出しレベルとは、1対1の対応となっています。

呼び出しスタック上の最初の呼び出しスタック項目名（リストの先頭）は、呼び出しレベル1の呼び出し先プログラムまたはプロシージャです。2番目の呼び出しスタック項目名は、呼び出しレベル2のプログラムまたはプロシージャです。最後の呼び出しスタック項目名は、そのジョブの最高の呼び出しレベルのプログラムまたはプロシージャです。

*ACTGRPDFN

削除するファイル一時変更の呼び出しレベルは、このコマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって決まります。活動化グループが省略時の活動化グループである時には、削除する一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない時には、削除する一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

* 削除されるファイル一時変更の呼び出しレベルは、DLTOVRコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの呼び出しレベルです。QCMDEXCを介してDLTOVRコマンドを呼び出した場合には、呼び出しレベルは、QCMDEXCの呼び出し元の呼び出しレベルと同じレベルです。

***JOB** ジョブに対する範囲のファイル一時変更が削除されます。ジョブ・レベルがOVRSCOPE(*JOB)の一時変更のみが削除されます。

上

例

例1:呼び出しレベル一時変更の削除

1. OVRDBF FILE(A) TOFILE(B)
2. OVRPRTF FILE(C) TOFILE(D)
3. OVRTAPF FILE(E) TOFILE(F)
- :
4. DLTOVR FILE(A C)
5. DLTOVR FILE(*ALL)

最初の3個の一時変更コマンドが、呼び出しレベルで以前に指定されている場合には、ファイルB、D、およびFが、ファイルA、C、およびEを一時変更します。4番目のコマンドは、ファイルAとCに影響を与えるファイ

ル一時変更のみを削除します。最後のコマンドは、呼び出しレベルで存在するすべてのファイル一時変更を削除します。この場合は、ファイルEを一時変更するコマンド、3番目のコマンドです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF9841

指定されたレベルに一時変更が見つからない。

上

プログラム装置項目一時変更削除 (DLTOVRDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置項目一時変更削除(DLTOVRDEVE)コマンドは、ある呼び出しレベルで前に指定された1つまたは複数のプログラム装置の一時変更を削除します。

DLTOVRDEVEコマンドで指定された一時変更される各プログラム装置の場合には、DLTOVRDEVEコマンドと同じ呼び出しレベルで指定された一時変更が削除されます。コマンドが対話式に入力されている時、あるいはバッチ・ジョブのプログラムの外側で入力された時には、その呼び出しレベルのプログラム装置一時変更が削除されます。コマンドがCLプログラムで使用された時には、そのプログラムの呼び出しレベルのプログラム装置一時変更が削除されます。プログラム装置一時変更は、プログラム装置一時変更コマンドのICFプログラム装置項目一時変更(OVRICFDEVE)の結果です。

DLTOVRDEVEコマンドは、同じ呼び出しレベルのすべてのプログラム装置一時変更を削除するか、あるいは同じ呼び出しレベルの特定のプログラム装置一時変更を削除することができます。コマンドが入力された呼び出しレベルのプログラム装置一時変更だけが削除されます。たとえば、一時変更コマンドが経路指定ステップ中の1つのプログラムで入力され、呼び出される別のプログラムにも一時変更コマンドが入っている場合には、2番目のプログラムで入力されたDLTOVRDEVEコマンドは、そのプログラムで起こる一時変更だけを削除することができます。DLTOVRDEVEコマンドは、プログラムが呼び出される前に入力された一時変更コマンドには何も影響しません。削除されたプログラム装置一時変更は、プログラム装置の後続の使用法にはまったく影響しません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGMDEV	一時変更されるプログラム装置	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
LVL	呼び出しレベル	*ACTGRPDFN, *, *JOB	オプション

上

一時変更されるプログラム装置 (PGMDEV)

削除中のプログラム装置一時変更を指定します。1つまたは複数のプログラム装置一時変更を名前別に指定することができます。

単一値

***ALL** このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在しているすべてのプログラム装置の一時変更が削除されます。

その他の値（最大50個指定可能）

名前 呼び出しレベルにある一時変更が削除されるはずの1つまたは複数の一時変更されているプログラム装置の名前を指定してください。

上

呼び出しレベル (LVL)

削除されるプログラム装置一時変更の呼び出しレベルを指定します。ジョブ処理(WRKJOB)コマンドから呼び出しスタック上に示された呼び出しスタック項目と、その呼び出しスタック項目の呼び出しレベルとは、1対1の対応となっています。

呼び出しスタック上の最初の呼び出しスタック項目名（リストの先頭）は、呼び出しレベル1の呼び出し先プログラムまたはプロシージャです。2番目の呼び出しスタック項目名は、呼び出しレベル2のプログラムまたはプロシージャです。最後の呼び出しスタック項目名は、そのジョブの最高の呼び出しレベルのプログラムまたはプロシージャです。

*ACTGRPDFN

削除するプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは、このコマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって決まります。活動化グループが省略時の活動化グループである時には、削除するプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない時には、削除するプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

* 削除されるプログラム装置一時変更の呼び出しレベルは、DLTOVRDEVEコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの呼び出しレベルです。QCMDEXCを介してDLTOVRDEVEコマンドを呼び出した場合には、呼び出しレベルは、QCMDEXCの呼び出し元の呼び出しレベルと同じレベルです。

*JOB ジョブに適用されるプログラム装置一時変更が削除されました。指定されたOVRSCOPE(*JOB)を持つジョブ・レベルの一時変更だけが削除されます。

上

例

例1:省略時活動化グループ中の呼び出し側プログラムでのプログラム装置一時変更の削除

```
DLTOVRDEVE PGMDEV(*ALL)
```

このコマンドは、呼び出し側プログラムが省略時活動化グループで実行される時に、呼び出しレベルに存在するすべてのプログラム装置の一時変更を削除します。呼び出し側プログラムが省略時活動化グループ以外の活動化グループで実行される時には、その活動化グループに適用されるプログラム装置一時変更が削除されます。

例2:任意の活動化グループ中の呼び出し側プログラムでのプログラム装置一時変更の削除

```
DLTOVRDEVE PGMDEV(*ALL) LVL(*)
```

このコマンドは、呼び出し側プログラムが実行される活動化グループにかかわらず、呼び出しレベルに存在するすべてのプログラム装置一時変更を削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

CPF9841

指定されたレベルに一時変更が見つからない。

ページ定義の削除 (DLTPAGDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ定義削除(DLTPAGDFN)コマンドは、指定したライブラリーからページ定義を削除します。ページ定義が見つからない場合には、ページ・セグメントが見つからなかったことを示すメッセージがユーザーに送られます。

制約事項: オブジェクトを削除するためには、*OBJEXIST権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PAGDFN	ページ定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ定義	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ページ定義 (PAGDFN)

削除するページ定義を指定します。特定のページ定義または総称ページ定義を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ページ定義

総称名 削除するページ定義の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称ページ定義名と同じ接頭部の名前のすべてのページ定義が削除されます。

名前 削除するページ定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されません。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1:現行ライブラリーからのページ定義の削除

```
DLTPAGDFN  PAGDFN(*CURLIB/P1DFLT)
```

このコマンドは、ページ定義PIDFLT（現行ライブラリーで見つかった場合）を削除します。

例2:ページ定義の削除

```
DLTPAGDFN  PAGDFN(*LIBL/P1*)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストでP1から始まるすべてのページ定義を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

ページ・セグメントの削除 (DLTPAGSEG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ページ・セグメント削除(DLTPAGSEG)コマンドは、指定したライブラリーからページ・セグメントを削除します。ページ・セグメントが見つかった場合には、それは削除されます。ページ・セグメントが見つからなかった場合には、ページ・セグメントを見つけることができません、というメッセージがユーザーに送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PAGSEG	ページ・セグメント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ページ・セグメント	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ページ・セグメント (PAGSEG)

削除するページ・セグメントを指定します。特定のページ・セグメントまたは総称ページ・セグメントを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ページ・セグメント

総称名 削除するページ・セグメントの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称ページ・セグメント名と同じ接頭部の名前をもつすべてのページ・セグメントが削除されます。

名前 削除するページ・セグメントの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ページ・セグメントを削除するために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 ライブラリー名を指定してください。このパラメーターに指定されたライブラリーだけが、ページ・セグメントを削除するために検索されます。

上

例

例1:ライブラリー・リストのページ・セグメントの削除

```
DLTPAGSEG  PAGSEG(*LIBL/PAGSEG1)
```

このコマンドは、PAGSEG1という名前のページ・セグメントがライブラリー・リストのライブラリーに入っている場合は、これを削除します。ライブラリー・リストにPAGSEG1が入っているライブラリーが複数ある場合は、最初に現れる文字だけが削除されます。

例2:すべてのライブラリーのページ・セグメントを削除

```
DLTPAGSEG  PAGSEG(*ALL/PAGSEG1)
```

このコマンドは、PAGSEG1という名前のすべてのページ・セグメントを削除します（この名前をもつIBM提供のページ・セグメントも含む）。

例3:現行ライブラリーのページ・セグメントの削除

202 System i: プログラミング i5/OS コマンド DLTCMNTRC (通信トレース削除)

DLTPAGSEG PAGSEG(*CURLIB/PG*)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリーに入っていて名前がPGから始まるすべてのページ・セグメントを削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

PDFマップの削除 (DLTPDFMAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PDFマップ削除(DLTPDFMAP)コマンドは、指定したライブラリーからPDFマップを削除します。PDFマップが見つかった場合には、それが削除されます。PDFマップが見つからない場合には、ユーザーにPDFマップが見つからなかったことを示すメッセージが送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PDFMAP	PDFマップ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PDFマップ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

PDFマップ (PDFMAP)

PDFマップの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PDFマップ

名前 PDFマップの名前を指定します。

修飾子2:ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーを検索します。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけを検索します。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーを検索します。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

上

例

DLTPDFMAP PDFMAPOBJ(QGPL/BIGSALES)

この例は、PDFマップを削除する方法を表しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

印刷記述子グループ削除 (DLTPDG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ削除(DLTPDG)コマンドは、印刷記述子グループについての情報を含み、その関連印刷記述子名が保管されるタイプ*PDG のオブジェクトを削除します。

制約事項:

印刷記述子グループ(PDG)に対して*OBJEXIST権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PDG	記述子グループの印刷	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 記述子グループの印刷	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

記述子グループの印刷 (PDG)

削除する印刷記述子グループ(PDG)の名前およびライブラリーを指定します。

使用できるPDG値は次の通りです。

印刷記述子グループ名

削除するPDGの名前を指定してください。

総称 * 印刷記述子グループ名

削除するPDGの総称名を指定してください。総称パターンと一致するすべてのPDGが削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL38     QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QMGTC      QSYS2xxxxx QSRINFSKR
QMGTC2     QS36F      QUSRND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

考えられる値は次の通りです。

印刷記述子グループ名

削除する印刷記述子グループの名前を指定してください。

総称*名

削除しようとしている印刷記述子グループの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前をもち、ユーザーが権限をもっているすべての印刷記述子グループが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが組み込まれていない場合には、システムはこれを完全な印刷記述子グループ名と見なします。総称名の使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクション を参照してください。

上

例

```
DLTPDG PDG(P3820*)
```

このコマンドは、P3820*で始まっている印刷記述子グループのすべてを削除します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

PEXデータの削除 (DLTPEXDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DLTPEXDTA (PERFORMANCE EXPLORERデータ削除) コマンドは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集され、特定のライブラリーに入っている物理ファイルのセット全体で保管されているデータを削除します。

制約事項: ユーザーは、指定されたライブラリーに入っている各PERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに対するオブジェクト存在権限を持っている必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DTAMBR	データ・メンバー	名前	必須, 定位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	オプション, 定位置 2

上

データ・メンバー (DTAMBR)

パフォーマンス・データのメンバー名を指定します。メンバー名は、PERFORMANCE EXPLORERツールで使用されるそれぞれの物理ファイルと同じです。

上

データ・ライブラリー (DTALIB)

パフォーマンス・データ・ファイルが存在するライブラリーを指定します。

QPEXDATA

パフォーマンス・データは、ライブラリーQPEXDATA中のファイルから削除されます。

名前 パフォーマンス・データ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

DLTPEXDTA DTAMBR(STATS3) DTALIB(TESTLIB)

このコマンドは、ライブラリーTESTLIBのPERFORMANCE EXPLORER データベース・ファイルからSTATS3という名前のメンバーを除去します。これらのメンバーは、'SSNID(STATS3) DTAOPT(*LIB) DTALIB(TESTLIB)'を指定して、PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションを終了(ENDPEX CL コマンド) したときに作成されています。

上

エラー・メッセージ

なし

上

パフォーマンス収集の削除 (DLTPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集の削除 (DLTPFRCOL)コマンドによって、ユーザーはライブラリーからパフォーマンス収集を削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COL	集合	単一値: <u>*SELECT</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション、定位置 1
LIB	[b]ボ[メー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
COLTYPE	収集タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値, <u>*CSFILE</u>	オプション

上

集合 (COL)

削除するパフォーマンス収集を指定します。

単一値

*SELECT

削除するパフォーマンス収集をユーザーが選択できるように、指定されたライブラリーにあるすべての収集をリストします。

注: この値は、対話環境でのみ有効です。

その他の値 (最大50個指定可能)

名前 削除するパフォーマンス収集の名前を指定してください。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス収集が入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス収集は、弊社提供パフォーマンス・ライブラリーQPFRDATAの中で見つけれられます。

名前 パフォーマンス収集が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

収集タイプ (COLTYPE)

削除される収集のタイプを指定します。

単一値

***ALL** 集合 (COL)パラメーターに指定されたものと同じ名前のすべてのタイプのパフォーマンス収集が削除されます。これには、ファイル・ベースの収集とオブジェクト・ベースの収集が含まれます。

その他の値 (最大10個指定可能)

*CSFILE

集合 (COL)パラメーターに指定された、収集サービスのファイル・ベースの収集のみが削除されます。

*CSMGTCOL

集合 (COL)パラメーターに指定された、収集サービスのオブジェクト・ベースの収集のみが削除されます。

*DWFILE

集合 (COL)パラメーターに指定された、ディスク監視のファイル・ベースの収集のみが削除されます。

*JWFILE

集合 (COL)パラメーターに指定された、ジョブ監視のファイル・ベースの収集のみが削除されます。

*PEXFILE

集合 (COL)パラメーターに指定された、Performance Explorerのファイル・ベースの収集のみが削除されます。

*PEXMGTCOL

集合 (COL)パラメーターに指定された、Performance Explorerのオブジェクト・ベースの収集のみが削除されます。

タイプ 削除される収集のタイプを指定してください。

有効な値は、システムによってサポートされるパフォーマンス収集によって異なります。このコマンド・パラメーターのプロンプトが表示されている間にF4を押すと、有効な収集タイプ値のリストが表示されます。

上

例

DLTPFRCOL COL(TEST1)

このコマンドは、収集ライブラリーQPFRDATAからパフォーマンス収集TEST1を削除します。このコマンドは、ユーザー待機中に対話式に実行されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFC721

パフォーマンス収集の削除は認可されていない。

CPFC722

パフォーマンス収集&2は存在していません。

上

プログラム削除 (DLTPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム削除(DLTPGM)コマンドは、コンパイル済みプログラムまたはプログラムのグループを削除します。プログラムが現在実行中の場合には、別のジョブで特定のオブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドが有効となっていないかぎり、このコマンドを出した時にプログラム処理が異常終了されます。高水準言語(HLL)またはCLプログラムは削除することができます。

制約事項:

- プログラムに対してはオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が、プログラムが入っているライブラリーに対しては実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- 削除するプログラムを現在デバッグ中の場合には、削除されるプログラムに対して暗黙参照が行なわれた場合（たとえば、変数変更(CHGVAR)コマンドがPGM(*DFTPGM)を指定している）には、機能チェックが起こります。機能チェックを回避するためには、プログラム除去(RMVPGM)コマンドを使用して、それを削除する前にデバッグ・セッションからプログラムを除去してください。ユーザーがデバッグ・モードにいる時にプログラムを再コンパイルする場合には、デバッグ・モードからプログラムを除去し(RMVPGMコマンドの使用)、システムからそれを除去し(プログラム除去(DLTPGM)コマンドの使用)、そのプログラムを変更および再コンパイルして、そのプログラムの新しいバージョンをデバッグ・モードに追加(プログラム追加(ADDPGM)コマンドの使用)してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

プログラム (PGM)

削除するプログラムを指定します。特定のプログラム名または総称プログラム名を指定することができます。いずれの場合も、必要に応じてライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 削除するプログラムの名前を指定してください。

総称名 削除するプログラムの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

上

例

```
DLTPGM  PGM(LIB1/PROG1)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1からプログラムPROG1を削除します。ただし、ユーザーは、このプログラムとライブラリーに対して適切な権限が必要です。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

パネル・グループ削除 (DLTPNLGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パネル・グループ削除(DLTPNLGRP)コマンドは、指定されたパネル・グループをシステムから取り除きます。

制約事項:

- パネル・グループに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、パネル・グループが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PNLGRP	パネル・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: パネル・グループ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

パネル・グループ (PNLGRP)

削除する1つまたは複数のパネル・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: パネル・グループ

総称名 削除するパネル・グループの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、その総称パネル・グループ名と同じ接頭部の名前を持つすべてのパネル・グループが削除されます。

名前 削除するパネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTPNLGRP  PNLGRP(*CURLIB/AR*)
```

このコマンドは、現行ライブラリーとしてリストされたライブラリーから、接頭部ARをもつ名前のすべてのパネル・グループ (たとえばARINV, ARREC, ARPERS)を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

問題削除 (DLTPRB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー（一般には、システム操作員またはシステム問題を扱う責任があるユーザー）は問題削除 (DLTPRB) コマンドを使用して、1つまたは複数の項目を削除することで問題ログのサイズを保守します。問題ログ・サイズ制御の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「システム操作の基本」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV, および QSRVBAS ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRBID	問題識別コード	文字値, *ALL	オプション, 定位置 1
STATUS	状況タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *OPENED, *READY, *PREPARED, *SENT, *ANSWERED, *VERIFIED, *CLOSED	オプション
DAYS	日数	0-999, 30	オプション
ORIGIN	起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR, *ALL	
	要素 2: 制御点名	通信名, *NETATR, *ALL	

上

問題識別コード (PRBID)

削除される問題の ID を指定します。異なる起点システムをもつ問題が同じ ID をもっている場合があります。特定の起点システムから1つの問題を選択するためには、このパラメーターと一緒に起点 (ORIGIN) パラメーターを使用することができます。

*ALL 他を選択基準に一致するすべての問題が削除されます。

問題ID

削除される問題の10文字の問題 ID を指定してください。問題 ID を指定した場合には、状況タイプ (STATUS) パラメーターおよび日数 (DAYS) パラメーターは無視されます。

上

状況タイプ (STATUS)

問題ログ項目の状況を指定します。 次の7つのタイプの状況があります。

*OPENED

問題はオープンされた状況になっています。 問題が識別されていて、問題レコードは作成されました。

*READY

問題は送信可能状況になっています。 問題分析情報が問題レコードに追加されました。

*PREPARED

問題は準備完了状況になっています。 問題を報告する準備が完了しました。

*SENT

問題は送信状況になっています。 問題がサービス提供元に送信されましたが、応答が戻ってきません。

*ANSWERED

問題が回答状況になっています。 サービス提供元によって応答が戻されたか、システムの操作員によって追加されました。

*VERIFIED

問題が検査状況になっています。 問題は解決し、システム操作員はプログラムが正しいことを検査しました。

*CLOSED

問題がクローズされました。

注: このパラメーターは、**問題識別コード (PRBID)**パラメーターに*ALLを指定した場合にだけ有効です。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。 入力画面が表示されており、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要な場合には、"値の続きは+" の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力し、実行キーを押してください。

***ALL** 他の選択基準に一致するすべての問題が削除されます。

状況タイプ

7種類の状況タイプの1つを指定してください。

上

日数 (DAYS)

この値より古い問題を削除することを指定します。 有効な値の範囲は、**提示されたまたは終了された**日付後の0-999日です。 **終了された**以外の状況の問題は、**提示された**日付後の指定した日数に削除されます。 **終了された**状況の問題は**終了された**日付後の指定した日数の後に削除されます。

このパラメーターは、**問題識別コード (PRBID)**パラメーターに*ALLを指定した場合にだけ有効です。

30 問題削除までの省略時の日数。

日数 日数を指定してください。 この値がシステム値QPRBHLDITVより小さい場合には、代わりにこのシステム値が使用されます。

上

起点 (ORIGIN)

指定したノードだけを起点とする問題ログ項目が削除されることを指定します。

要素1: ネットワーク識別コード

*NETATR

このシステムのネットワーク属性で定義されたのと同じローカル・ネットワークIDのシステムで始まっている項目だけが削除されます。

***ALL** 起点システムのネットワークIDと関係なく、すべての項目が削除されます。

通信名 問題が起こったシステムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点名

*NETATR

このシステムのネットワーク属性で定義されたのと同じローカル制御点名のシステムで始まっている項目だけが削除されます。

***ALL** 指定されたネットワークIDのシステムで始まっているすべての項目が削除されます。

通信名 制御点名を指定してください。

上

例

```
DLTPRB STATUS(*OPENED *READY *SENT) DAYS(15)
```

このコマンドは、15日前に問題ログに追加された**OPENED**、**READY**、または**SENT**状況になっている項目をすべて削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF7AA6

問題レコード&1を削除することはできない。

CPF7AA7

問題&1が見つからなかったか、または使用中である。

CPF7A9C

この時点で、問題ログを処理することはできない。

CPF7A93

問題&2はジョブ&1によって現在使用中である。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

上

PSF構成の削除 (DLTPSF CFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PSF構成の削除 (DLTPSF CFG)コマンドは、印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定したライブラリーから削除します。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。
- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PSFCFG	PSF構成	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PSF構成	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

PSF構成 (PSFCFG)

削除する印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PSF構成

名前 削除するPSF構成オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

上

例

DLTPSF CFG PSFCFG(MYLIB/MYPSFCFG)

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のMYPSFCFGという名前のPSF構成オブジェクトを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

プログラム一時修正の削除 (DLTPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正削除(DLTPTF)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)保管ファイル、その関連のカバー・レター、および発注され、PTFのレコードを削除するために使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTF	PTF	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *ALL	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	オプション
RLS	リリース	文字値, *ALL	オプション
DLTDUPPTF	重複PTF番号の削除	*YES, *NO	オプション

上

PTF (PTF)

削除するPTFのPTF識別番号を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのPTFが削除されます。

文字値 削除するPTFの識別番号を指定します。最大50個のPTF番号を指定することができます。

上

プロダクト (LICPGM)

PTFが削除されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

***ALL** 指定されたPTFの検索中は、プロダクトIDが無視されます。

文字値 7桁のプロダクトIDを指定してください。

上

リリース (RLS)

削除されるPTFのリリース・レベルを指定します。

***ALL** すべてのリリースのプロダクトのPTFが削除されます。

文字値 リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。LICPGM(*ALL)が指定されている場合には、特定のリリースを指定できません。

上

重複PTF番号の削除 (DLTDUPPTF)

重複PTF番号を削除するかどうかを指定します。

***NO** 重複PTF番号は削除されません。

***YES** 重複PTF番号が削除されます。

上

例

DLTPTF PTF(SI12345)

このコマンドは、QGPLライブラリーからSF12345という名前のPTFの保管ファイルを削除します。SF12345という名前のPTFのカバー・レター・ファイルのメンバーも削除されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35AE

重複したPTF &1が見つかった。

CPF35C5

PTF &1-&2 &3は削除されなかった。

CPF35E2

PTF &1-&2 &3の情報が見つからない。

CPF35F1

カバー・レター・ファイル&1が&2に見つからない。

CPF35F2

PTF &2-&1 &3のカバー・レターが見つからない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

QUERY管理機能書式の削除 (DLTQMFORM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能書式削除(DLTQMFORM)コマンドによって、ライブラリーから既存のQUERY管理機能書式を削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

削除するQUERY管理機能書式を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能報告書書式

総称名 削除する書式の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には, 名前がその総称名で始まり, ユーザーが権限を持っているすべての書式が指定されたライブラリーまたはライブラリー・リストから削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には, システムはその名前を完全な書式名と見なします。

名前 削除する書式の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には, 現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には, ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTQMFORM  QMQRY(RPTLIB/FORM1)
```

このコマンドは、ライブラリーRPTLIBからQUERY管理機能書式FORM1を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

QUERY管理機能プログラム削除 (DLTQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム削除(DLTQMQR)コマンドは、ライブラリーから既存のQUERY管理機能プログラムを削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

削除するQUERY管理機能プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能プログラム

総称名 1つまたは複数のライブラリーから削除するQUERYの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、名前がその総称名で始まり、ユーザーが権限を持っているすべてのQUERYが指定されたライブラリーまたはライブラリー・リストから削除されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはその名前を完全なQUERY名と見なします。

名前 削除するQUERYの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTQMQRV  QMQRV(RPTLIB/QUERY1)
```

このコマンドは、ライブラリーRPTLIBからQUERY管理機能QUERY QUERY1を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

QUERY削除 (DLTQRY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY削除(DLTQRY)コマンドは、既存のQUERY定義をライブラリーから削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QRY	QUERY	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

QUERY (QRYパラメーター)

削除するQUERY定義の修飾名を指定します。

QUERY名

削除するQUERY定義の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

QUERY定義の名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRB	QUSRVI
QGGL	QSRVAGT	QUSRISJS	QUSRVRxMx
QGGL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1: QUERY定義を削除

```
DLTQRY QRY(LIB1/MYDEF)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1からQUERY定義MYDEFを削除します。

例2: すべてのライブラリーからQUERY定義を削除

```
DLTQRY QRY(*ALL/MYDEF)
```

このコマンドは、システム上の名前MYDEFのQUERY定義をすべて削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

質問・回答の削除 (DLTQST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問削除(DLTQST)コマンドによって、ローカル質問・回答(Q&A)データベースを検索し、削除する1つまたは複数の質問を見つけることができます。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションで入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. ユーザーがこのコマンドによって会話型質問または候補質問を削除することはできません。
4. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, * <u>SELECT</u>	オプションル, 定位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, * <u>QSTLIB</u>	オプションル, 定位置 2

上

Q/Aデータベース (QSTDB)

質問を削除するQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

質問を削除するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

上

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q/Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q/Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***QSTLIB**

指定されたQ/Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ/Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ/Aデータベースを選択することができます。

上

例

DLTQST

このコマンドは、検索変数指定画面を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

Q/Aデータベース削除 (DLTQSTDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース削除(DLTQSTDB)コマンドによって、認可されたユーザーはこのシステムから質問・回答(Q&A)データベースを削除することができます。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションで入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, * <u>SELECT</u>	オプションル, 定位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, * <u>QSTLIB</u>	オプションル, 定位置 2

上

Q/Aデータベース (QSTDB)

このシステムから削除されるQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

このシステムから削除されるQ&Aデータベースの名前を指定してください。

上

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

削除されるQ&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のデータベースを選択することができます。

上

例

DLTQSTDB

このコマンドは、Q&Aデータベース削除確認画面を表示します。複数のQ&Aデータベースが選択に使用可能な場合には、Q&Aデータベース選択画面が最初に表示されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

サブシステム記述削除 (DLTSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述削除 (DLTSBSD)コマンドは、指定されたサブシステム記述（それらに追加されたすべての作業項目またはルーティング項目を含む）をシステムから削除します。ジョブ待ち行列項目追加 (ADDJOBQE)コマンドによってこのサブシステムに割り当てられたジョブ待ち行列は削除されません。削除する前に、関連サブシステムを非活動状態にしておかなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対する使用(*USE)およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 活動サブシステムがこの記述と関連付けられている場合には、このコマンドを実行することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

サブシステム記述 (SBSD)

削除しようとしているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。特定のサブシステム記述または総称サブシステム記述を指定することができ、いずれの場合もライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

総称名 削除されるサブシステム記述の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称サブシステム記述と同じ接頭部を持つ名前のすべてのサブシステム記述が削除されます。

名前 削除しようとしているサブシステム記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。特定のオブジェクト名（総称名ではなく）を指定した場合には、最初に見つかったその名前のオブジェクトだけが削除されます。

***ALL** 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっている補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。これには、システムASP (ASP 1), すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。ユーザーの固有のQTEMPライブラリーだけが検索されます。スレッドの名前スペースのすべてのライブラリーの、指定された名前およびオブジェクト・タイプと一致したすべてのオブジェクトが削除されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRDB	QUSRVI
QGPL	QSRVAGT	QUSRIS	QUSRVRxRxMx
QGPL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVRXRMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVRXRMXユーザー・ライブラリーのVRXRMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

例

DLTSBSD SBSD(LIB1/BAKER)

このコマンドは、BAKERと呼ばれる非活動状態のサブシステム記述をライブラリーLIB1から削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

上

検索見出し削除 (DLTSCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し削除(DLTSCHIDX)コマンドは、指定されたヘルプ見出しをシステムから除去します。

制約事項:

- 検索見出しに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、および検索見出しオブジェクトが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

検索見出し (SCHIDX)

削除するヘルプ見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 削除されるヘルプ見出しの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称パネル・グループ名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのヘルプ見出しが削除されます。

名前 削除しようとするヘルプ見出しの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTSCHIDX  SCHIDX(*CURLIB/AR*)
```

このコマンドは、現行ライブラリーとしてリストされたライブラリーから、名前の接頭部がARのすべての検索見出し (たとえばARINV, ARREC, ARPERS)を削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

スペル援助辞書削除 (DLTSPADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE DELETE SPELLING AID DICTIONARY (DLTSPADCT) COMMAND ALLOWS YOU TO DELETE THE SPECIFIED SPELLING AID DICTIONARY FROM THE SYSTEM.

RESTRICTION: YOU MUST HAVE OBJECT EXISTENCE OR ALL AUTHORITY FOR THE SPELLING AID DICTIONARY BEING DELETED.

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SPADCT	スペル援助辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: スペル援助辞書	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

スペル援助辞書 (SPADCT)

SPECIFIES THE DICTIONARY OR DICTIONARIES TO BE DELETED. A SPECIFIC SPELLING AID DICTIONARY OR GENERIC SPELLING AID DICTIONARY CAN BE SPECIFIED; EITHER TYPE CAN BE QUALIFIED BY A LIBRARY NAME.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

SPELLING-AID-DICTIONARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE SPELLING AID DICTIONARY TO BE DELETED.

GENERIC*-SPELLING-AID-DICTIONARY-NAME

SPECIFY THE GENERIC NAME OF THE SPELLING AID DICTIONARY THAT IS TO BE DELETED. A GENERIC NAME IS ONE OR MORE CHARACTERS FOLLOWED BY AN ASTERISK (*). IF A GENERIC NAME IS SPECIFIED, ALL SPELLING AID DICTIONARIES THAT HAVE NAMES WITH THE SAME PREFIX AS THE GENERIC SPELLING AID DICTIONARY NAME ARE DELETED.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES JOB'S LIBRARY LIST ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND. IF A SPECIFIC SPELLING AID DICTIONARY NAME IS SPECIFIED (RATHER THAN A GENERIC NAME), ONLY THE FIRST SPELLING AID DICTIONARY FOUND WITH THAT NAME IS DELETED.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE USER'S JOB IS SEARCHED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE DICTIONARY IS LOCATED.
YOU MUST HAVE OPERATIONAL AUTHORITY FOR THE LIBRARY SPECIFIED.

上

例

DLTSPADCT SPADCT(MYLIB/LANGUAGE)

THIS COMMAND DELETES THE SPELLING AID DICTIONARY NAMED LANGUAGE IN LIBRARY MYLIB.

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

スプール・ファイル削除 (DLTSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル削除(DLTSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルを出力待ち行列から除去するために使用されます。スプール・ファイルが現在装置で作成中の場合には、即時に処理が停止され、除去されます。生成されなかったデータはすべて失われます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV		
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

上

スプール・ファイル (FILE)

出力待ち行列から除去するスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SELECT

ファイル選択 (SELECT)パラメーターに指定された選択値を満たすすべてのスプール・ファイルが削除されます。この値は、ジョブ名 (JOB)パラメーター、スプール・ファイル番号 (SPLNBR)パラメーター、ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)パラメーター、または作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)パラメーターに指定される値と相互に排他的です。

名前 システムから除去するスプール・ファイルの名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

出力待ち行列から除去されるスプール・ファイルを作成した（あるいは作成中である）ジョブの名前を指定します。

単一値

* このコマンドを出したジョブが、削除するスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 削除するファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

スプール・ファイルを作成したジョブのシステム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

出力待ち行列から除去するジョブのスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

ジョブで作成され、指定されたファイル名の最高の番号を持つスプール・ファイルが削除されるファイルになります。

*ANY 使用するスプール・ファイルを決断するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

指定されたファイル名を持ち、削除されるスプール・ファイルの番号を指定してください。

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

ファイル選択 (SELECT)

削除するために選択するファイルのグループを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルと関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されます。

要素1: ユーザー

*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

名前 ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

要素2: 印刷装置

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

*OUTQ

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

名前 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

要素3: 用紙タイプ

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

要素4: ユーザー・データ

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

要素5: ASP

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

***ASPDEV**

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

1から32

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

* 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2から32)で見つかったファイルが選択されます。

***CURASGRP**

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 補助記憶域プール装置記述の名前を指定してください。指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

上

例

DLTSPLF FILE(WEEKLY) JOB(000146/SMITH/PAYROLL5)

このコマンドは、(ユーザーSMITHのためのジョブ番号000146のジョブPAYROLL5の) WEEKLYという名前のスプール・ファイルを出力待ち行列から削除します。PAYROLL5という名前のジョブによって作成された別の名前をもつスプール・ファイルは、このコマンドの影響を受けません。ジョブがWEEKLYという名前のファイルを1つ以上作成した場合には、SPLNBR(*ONLY)とみなされているためにファイルは削除されません。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2ではASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF34A4

ファイル&1番号&8は保留または削除されない。

CPF3478

ファイル&1はライブラリー&7の出力待ち行列&6のジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF8128

ライブラリー&9の出力待ち行列&4に&8の損傷がある。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

上

SQLパッケージの削除 (DLTSQLPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構造化照会言語パッケージ削除(DLTSQLPKG)コマンドは、1つのSQLパッケージまたは1グループのパッケージを削除するために使用されます。

DLTSQLPKGはローカル・コマンドであり、削除するSQLパッケージが存在しているSystem i5システム上で使用しなければなりません。

System i5システムでもあるリモート・システム上のSQLパッケージを削除するためには、リモート・コマンド投入(SBMRMTCMD)コマンドを使用して、リモート・システム上でDLTSQLPKGコマンドを実行してください。

ユーザーは、System i5システムではないリモート・システムからSQLパッケージを削除するために、次を実行できます。

- 対話式SQLを使用してCONNECT操作およびDROP PACKAGE操作を実行します。
- リモート・システムにサインオンして、コマンドをそのシステムのローカルとして使用する。
- DROP PACKAGE SQLステートメントを含むSQLプログラムを作成および実行します。

制約事項:

- リモート・システムのSQLパッケージを削除するために、DLTSQLPKGコマンドを使用することはできません。リモート・システムからSQLパッケージを削除するためには、次の1つを実行してください。
 - SQLを対話式に使用して、CONNECTおよびDROP PACKAGEステートメントを実行する。
 - リモート・システムにサインオンして、コマンドをそのシステムのローカルとして使用する。
 - DROP PACKAGE SQLステートメントが入っているSQLプログラムを作成し、実行する。
- このコマンドを実行するには、SQLパッケージに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、およびSQLパッケージが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SQLPKG	SQLパッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: SQLパッケージ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

SQLパッケージ (SQLPKG)

削除するSQLパッケージを指定します。総称SQLパッケージ名を指定することによって、複数のSQLパッケージを削除することができます。

修飾子1: SQLパッケージ

総称名 削除するSQLパッケージの総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。

名前 削除するSQLパッケージの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

例

DLTSQLPKG SQLPKG(JONES)

このコマンドは、SQLパッケージJONESを削除します。

エラー・メッセージ

なし

サービス構成の削除 (DLTSRVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス構成の削除 (DLTSRVCFG)コマンドは、すべてのサービスおよびサポート・アプリケーション (エレクトロニック支援(ECS)、およびエレクトロニック・サービス・エージェントのために使用されるサービス構成を削除します。基本構成とバックアップ構成が削除されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- DLTCMNCFG(*YES)が指定されている場合は、該当するサービス構成オブジェクト (回線、制御装置、および装置記述) に対してオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLTCMNCFG	通信構成の削除	*NO, *YES	オプション、定位置 1

上

通信構成の削除 (DLTCMNCFG)

サービス構成に関連したすべての通信構成を削除するかどうかを指定します。これには、このサービス構成とともに使用するよう定義された接続プロファイル、回線記述、制御装置記述、および装置記述が含まれます。

注: 通信構成オブジェクトは、別のプロファイルによって参照されている場合には、削除されません。

***NO** サービス構成オブジェクトは削除されません。

***YES** サービス構成オブジェクトは削除されます。

上

例

例1:通信オブジェクトの削除

DLTSRVCFG DLTCMNCFG(*YES)

このコマンドは、エレクトロニック支援(ECS)およびエレクトロニック・サービス・エージェントによって使用されるサービス構成を削除します。この構成の通信オブジェクトは、別の通信構成と共用されていない場合に削除されます。

例2:通信オブジェクトの非削除

DLTSRVCFG DLTCMNCFG(*NO)

このコマンドは、エレクトロニック支援(ECS)およびエレクトロニック・サービス・エージェントによって使用されるサービス構成を削除しますが、構成の通信オブジェクトは、削除されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

上

サービス・プログラムの削除 (DLTSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム削除(DLTSRVPGM)コマンドは、バインドされたサービス・プログラムまたはサービス・プログラムのグループを、モジュールとバインド・ディレクトリーの1つのセットから削除します。

制約事項:

- サービス・プログラムに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- サービス・プログラムを削除するライブラリーに対して実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

サービス・プログラム (SRVPGM)

削除するサービス・プログラムを指定します。特定サービス・プログラムまたは総称サービス・プログラムを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

総称名 削除するサービス・プログラムの総称名を指定してください。総称名は1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のサービス・プログラムで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのサービス・プログラムが削除されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なサービス・プログラム名と見なします。

名前 削除するサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVRxRmMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
DLTSRVPGM  SRVPGM(XYZ/S*)
```

このコマンドは、文字Sで始まっているライブラリーXYZ内のサービス・プログラムのすべてを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFE007

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

上

テープ・カテゴリの削除 (DLTTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリ削除(DLTTAPCGY)コマンドは、前にテープ・カテゴリ作成(CRTTAPCGY)コマンドによって作成されたユーザー定義カテゴリ名を削除します。このカテゴリに現在カートリッジIDが割り当てられている場合には、カテゴリは削除されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CGY	カテゴリ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: カテゴリ名	文字値	
	要素 2: カテゴリ・システム	文字値, <u>*CURRENT</u>	

上

カテゴリ (CGY)

削除するカテゴリを指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: カテゴリ名

文字値 ユーザー定義のカテゴリの名前を指定してください。このカテゴリ名は、前にテープ・カテゴリ作成(CRTTAPCGY)コマンドによって作成されたものでなければなりません。

要素2: カテゴリ・システム

カテゴリが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの現行システム名フィールドから取られます。

*CURRENT

現在コマンドを実行中のシステム。

文字値 カテゴリの基本所有者であるシステムの名前を指定してください。

上

例

DLTTAPCGY CGY(CAT1 RCHAS215)

このコマンドは、ユーザー定義のCAT1という名前のカテゴリーを基本所有者RCHAS215から削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF67C6

カテゴリー&4は削除されなかった。

CPF67E3

カテゴリーは削除されなかった。

上

テーブル削除 (DLTTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テーブル削除(DLTTBL)コマンドは、指定したテーブル（複数の場合もある）を削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

テーブル (TBL)

削除されるテーブルの名前を指定します。特定テーブルまたは総称テーブルを指定することができ、いずれのタイプもライブラリー名によって任意に修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

テーブル名

削除されるテーブルの修飾名を指定してください。

総称*テーブル名

削除されるテーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク (*) からなる文字ストリングとして指定することができます。総称名を指定した場合には、総称テーブル名と同じ接頭部のある名前のすべてのテーブルが削除されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

削除されるテーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。 現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。 次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。 したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

ライブラリー名を指定してください。このパラメーターに指定したライブラリーだけが、削除されるテーブルを見つけるために検索されます。

上

例

```
DLTTBL  TBL(SCRAMTBL)
```

このコマンドは、SCRAMTBLという名前のテーブルをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

上

時間帯記述削除 (DLTTIMZON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

時間帯記述削除 (DLTTIMZON)コマンドは、指定された時間帯記述オブジェクトを削除します。

制約事項:

- 削除する時間帯記述に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- QSYSライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- QTIMZONシステム値に指定された時間帯記述を削除することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TIMZON	時間帯記述	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

時間帯記述 (TIMZON)

削除する時間帯記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 削除する時間帯記述の総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部を持つ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 時間帯記述の名前を指定します。

上

例

DLTTIMZON TIMZON(CENTRAL)

このコマンドは、時間帯記述CENTRALを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF09A2

時間帯記述&1は削除されていません。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

トレースの削除 (DLTTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース・データの削除(DLTTRC)コマンドは、ENDTRC (トレースの終了)コマンドによってデータベース・ファイルのセットに保管したトレース・データを削除します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem iナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- このコマンドを使用するには、トレース・データが保管されるそのライブラリー内のライブラリーおよびデータベース・ファイルに対する権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTAMBR	データ・メンバー	名前	オプション、定位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *CURLIB	オプション

上

データ・メンバー (DTAMBR)

削除したいトレース・データを含むデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このメンバー名は、トレースの開始(STRTTRC)およびトレースの終了(ENDTRC)コマンドに指定したトレース・セッションIDと同じです。メンバー名は、トレース・データが入っている各物理ファイルと同じです。

これは必須パラメーターです。

名前 トレース・データが入っているデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

データ・ライブラリー (DTALIB)

収集されたトレース・データが保管されるデータベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

***CURLIB**

トレース・データは、ジョブの現行ライブラリー中のファイルから削除されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 トレース・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

例

DLTTRC DTAMBR(MYTRACE) DTALIB(MYTRCLIB)

このコマンドは、トレース・セッションMYTRACEと関連したトレース・データが入っているライブラリーMYTRCLIB中のファイルのデータベース・ファイル・メンバーを除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPC3925

&1メンバーが除去されて、&2メンバーが除去されていない。

CPF39CE

DLTTRCコマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF98A2

&1コマンドまたはAPIは認可されていない。

上

ユーザー定義FSの削除 (DLTUDFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー定義ファイル・システム削除(DLTUDFS)コマンドは、既存のアンマウントされたユーザー定義ファイル・システム(UDFS)とその中のすべてのオブジェクトを削除します。UDFSがマウントされている場合には、このコマンドは正常に実行されません。

制約事項:

- 削除するUDFSはマウントされてはなりません。
- このコマンドを指定できるのは、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限を持つユーザーだけです。
- ユーザーは、UDFS内のすべてのオブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限を持っていないければなりません。
- ユーザーは、UDFS内のすべての空の状態でないディレクトリー・オブジェクトに対する書き込み(*W)および実行(*X)権限を持っていないければなりません。
- UDFS内の空の状態でないディレクトリー・オブジェクトが「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）の場合は、次の1つ以上が真です。
 - ユーザーがディレクトリーに含まれるすべてのオブジェクトの所有者でなければなりません。
 - ユーザーがディレクトリーの所有者でなければなりません。
 - ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
- UDFSに、「読み取り専用」属性が「はい」になっているオブジェクトがある場合、またはチェックアウトされるオブジェクトがある場合、そのUDFSは削除できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
UDFS	ユーザー定義ファイル・システム	パス名	必須, 定位置 1

上

ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)

削除する既存のUDFSのパス名を指定します。これは、次の2つの形式のうちの1つでなければなりません。

- `/DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS`,ここで、`XX`は有効なシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)番号の1つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

- `/DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS`,ここで`ASPNAME`はシステムの有効な独立ASP名の1つで、`UDFSNAME`はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定された`QASPXX`または`ASPNAME`ディレクトリー内で固有でなければなりません。

*'および?'などのワイルドカード文字は、このパラメーターでは使用できません。指定されたUDFSが現在マウントされている場合には、このコマンドは正常に実行されません。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、[i5/OS Information Center](http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/) (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

例1:ユーザー定義ファイル・システムの削除

```
DLTUDFS  UDFS('/DEV/QASP01/JOE.UDFS')
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP 1)から**JOE.UDFS**という名前のユーザー定義ファイル・システム(UDFS)を削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

ディレクトリーにオブジェクトが入っています。ディレクトリーは&1です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

ユーザー見出し削除 (DLTUSRIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー索引削除(DLTUSRIDX)コマンドはシステムからユーザー見出しを削除します。

制約事項:このコマンドを入力するには、削除されるユーザー見出しに対する*OBJEXIST権限、およびそのユーザー見出しが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRIDX	ユーザー見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー見出し	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ユーザー見出し (USRIDX)

削除するユーザー見出しの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPLIB     #RPLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー見出しの値は次の通りです。

ユーザー見出し名

削除するユーザー見出しの名前を指定してください。

総称*ユーザー見出し名

ユーザー見出しの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（例えば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる名前のすべてのユーザー見出し、およびユーザーが権限をもっているユーザー見出しが表示されます。

上

例

```
DLTUSRIDX  USRIDX(MYBEST/USRIDXTEST)
```

このコマンドは、MYBESTという名前のライブラリーのUSRIDXTESTという名前のユーザー索引をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

ユーザー・プロファイル削除 (DLTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドは、システムからユーザー・プロファイルを削除します。このコマンドのユーザーには、プログラム借用操作によって得ることができる、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限、および削除されるユーザー・プロファイルに対してのオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限および使用(*USE) 権限が必要です。

このユーザー・プロファイルと関連付けられたメッセージ待ち行列が自動的に削除されるのは、そのユーザー・プロファイルがそのメッセージ待ち行列の所有者である場合です。

ユーザー・プロファイルがシステム障害によって損傷している場合には、ユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドを使用してプロファイルを削除し、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドを使用して再作成することができます。ユーザー・プロファイルの再作成後に、所有していたオブジェクトと1次グループ・オブジェクトを元に戻すことができます。また、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドを使用して、損傷したプロファイルに認可されていた権限を新しいユーザー・プロファイルに再度認可することができます。

制約事項:

- このユーザー・プロファイルに対して使用(*USE)およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限を持っていないければなりません。
- このユーザー・プロファイルと関連づけられ、このプロファイルにより所有されているメッセージ待ち行列を削除するためには、*OBJEXIST、*USE、および削除(*DLT)権限を持っていないければなりません。
- ユーザーがそのプロファイルのもとで現在実行中であつたり、そのプロファイルがオブジェクトを所有し、OWNOBJOPT(*NODLT)が指定されている場合には、ユーザー・プロファイルを削除することはできません。そのユーザー・プロファイル内のすべてのオブジェクトは、最初にオブジェクト所有者変更(CHGOBJOWN)コマンドを使用して新しい所有者に転送するか、あるいはシステムから削除する必要があります。これは、また、オブジェクトを削除するためのOWNOBJOPT(*DLT)または所有権を変更するためのOWNOBJOPT(*CHGOWNユーザー・プロファイル名)を指定することによっても実行することができます。ユーザーに認可された権限は、オブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT) コマンドによって明示的に取り消す必要はありません。ユーザー・プロファイルが削除された時に自動的に取り消されます。
- オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限を持っていないければなりません。
- ユーザー・プロファイルがオブジェクトの1次グループである場合には、このプロファイルを削除することはできません。ユーザーが1次グループであるオブジェクトは、オブジェクト1次グループ変更(CHGOBJPGP)コマンドを使用して新しいユーザーにすべて転送するか、あるいはシステムからすべて削除しないければなりません。転送は、1次グループを変更するPGPOPT(*CHGPGPユーザー・プロファイル名)を指定して行なうことができます。
- このコマンドは、システム配布ディレクトリー・サポートを呼び出してユーザーをディレクトリーから削除し、必要な場合にはそのユーザーを配布リストから削除します。システム配布ディレクトリー・サポートでは、システム配布ディレクトリー・ファイル(QUSURSYS/QAOS*)についてジャーナル処理および

びコミットメント制御が使用されます。この機能が要求された場合には、コミットメント制御は非活動状態でなければなりません。この機能が要求された時にコミットメント制御が活動状態になっていた場合には、ジャーナルはQUSRSYS/QAOSDIAJRNでなければなりません。

追加の考慮事項

1. 所有オブジェクト・タイプの*USRPRF, *RCT, および*AUTHLRはシステムから削除されません。これらのオブジェクト・タイプの所有権は、ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
2. タイプが*PRDDFNの所有オブジェクトは削除されません。所有権はユーザー・プロファイルQSYSに転送されます。
3. 上記の制約事項に加えて、DLTLIBに適用されるすべての制限がOWNOBJOPT(*DLT)の指定にも適用されます。例えば、オブジェクトが使用中であった場合には、それを削除することはできません。あるいは、物理ファイルに、別のユーザーによって所有されている関連論理ファイルがあった場合には、その物理ファイルを削除することはできません。
4. 別のユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトがライブラリーに含まれていた場合には、タイプが*LIBの所有オブジェクトはシステムから削除されません。ライブラリーの所有権はシステム・ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
5. 別のユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトがディレクトリーに含まれていた場合には、タイプが*DIRの所有オブジェクトはシステムから削除されません。ディレクトリーの所有権はシステム・ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
6. *BLKSFによって表されるユーザー定義のファイル・システムに、別のユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトが含まれている場合には、タイプが*BLKSFの所有オブジェクトはシステムから削除されません。ユーザー定義のファイル・システムの所有権はシステム・ユーザー・プロファイルQDFTOWNに転送されます。
7. 1つのユーザー・プロファイルがオブジェクトの所有者であると同時にそのオブジェクトの1次グループであることはできません。したがって、すでに新しい所有者が現行ユーザーの所有するオブジェクトの1次グループであった場合には、所有権の転送は正常に実行されません。また、新しい1次グループが、現行ユーザーが1次グループとなっているオブジェクトをすでに所有している場合にも、1次グループの転送は正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
OWNOBJOPT	所有オブジェクト・オプション	単一値: *NODLT, *DLT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 所有オブジェクト値	*CHGOWN	
	要素 2: ユーザー・プロファイル名(*CHGOWN)	名前	
PGPOPT	1次グループ・オプション	単一値: *NOCHG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 1次グループ値	*CHGPGP	
	要素 2: 新しい1次グループ	名前, *NONE	
	要素 3: 新しい1次グループ権限	*OLDPGP, *PRIVATE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	

キーワード	記述	選択項目	ノート
EIMASSOC	EIM関連	*DLT, *NODLT	オプション

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

削除するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: 次のIBM提供ユーザー・プロファイルはこのパラメーターでは無効です。

QANZAGENT, QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QEJBSVR, QFNC, QGATE, QIBMHELP, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFSANON, QNTP, QPEX, QPGMR, QPM400, QSECOFR, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QSYSOPR, QTCM, QTCP, QTFTP, QTMHHTTP, QTMHHTTP1, QTSTRQS, QUSER, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

名前 削除するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

所有オブジェクト・オプション (OWNOBJOPT)

ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトで実行される操作のタイプを指定します。

単一値

*NODLT

ユーザーがオブジェクトを所有している場合には、このユーザー・プロファイルの所有オブジェクトは変更されず、ユーザー・プロファイルは削除されません。

***DLT** ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトは削除されます。すべての所有オブジェクトの削除が正常に行なわれた場合には、ユーザー・プロファイルが削除されます。

要素1: 所有オブジェクト値

*CHGOWN

ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトの所有権が、指定されたユーザー・プロファイルに転送されます。すべての所有オブジェクトの転送が正常に完了した場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGOWNを指定した場合には、新規ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル名を指定する必要があります。この新規ユーザー・プロファイルが、**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターで指定されたユーザー・プロファイルが所有していたすべてのオブジェクトを所有します。

要素2: ユーザー・プロファイル名(*CHGOWN)

名前 新規所有者となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

1 次グループ・オプション (PGPOPT)

削除するユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトで実行される操作のタイプを指定します。

単一値

***NOCHG**

ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは変更されません。また、ユーザーがオブジェクトの1次グループである場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されません。

要素1: 1次グループ値

***CHGPGP**

ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは、指定されたユーザー・プロファイルに転送されます。すべてのオブジェクトの転送が正常に完了した場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGPGPが指定された場合には、ユーザー・プロファイル名または*NONEを指定しなければなりません。ユーザー・プロファイル名を指定した場合には、そのユーザーは、USRPRFパラメーターで指定されたユーザー・プロファイルが1次グループとなるすべてのオブジェクトの1次グループとなります。*NONEが指定された場合には、USRPRFパラメーターで指定されたユーザー・プロファイルが1次グループとなるすべてのオブジェクトは、もはや1次グループをもっていません。

要素2: 新しい1次グループ

***NONE**

このオブジェクトには、1次グループはありません。

名前 新規1次グループとなるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。指定されたユーザー・プロファイルには、グループID番号(**GID**)がなければなりません。

要素3: 新しい1次グループ権限

***OLDPGP**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して旧1次グループが持っていたものと同じ権限を持ちます。

***PRIVATE**

新しい1次グループがそのオブジェクトに対して専用権限を持っている場合には、これがそのオブジェクトの1次グループとなり、1次グループの権限はその専用権限であった内容となります。新しい1次グループがオブジェクトに対する専用権限を持っていない場合には、それが1次グループになりますが、オブジェクトに対するどんな権限も持ちません。

***ALL** 新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*ALL権限を持ちます。

***CHANGE**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*CHANGE権限を持ちます。

***USE** 新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*USE権限を持ちます。

***EXCLUDE**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*EXCLUDE権限を持ちます。

上

EIM関連 (EIMASSOC)

ローカル・レジストリー内のこのユーザーのエンタープライズ識別マッピング(EIM)関連を削除するかどうかを指定します。ローカル・レジストリー内のこのユーザーのすべての関連タイプ（ターゲット、ソース、管理、およびポリシーを含む）が削除されます。

このシステムがEIM用に構成されていない場合は、無処理です。このシステムがEIM用に構成されているが、EIMへの接続が失敗する（例えば、EIMを使用するように構成されているが、アクティブではないLDAPサーバーなど）場合は、1時間の間はEIMへの接続を試みるQSYEIMジョブが投入されます。EIM関連を削除できなくても、プロファイルの削除が失敗する原因にはなりません。

関連が削除されないと、同じ名前で作成されるプロファイルがこれらの関連を使用することになります。

***DLT** EIM関連は削除されます。

***NODLT**

EIM関連は削除されません。

上

例

DLTUSRPRF USRPRF(JJADAMS)

このコマンドは、オブジェクトをユーザー・プロファイルが所有していなくて、ユーザーがそのもとで実行中ではなく、さらにそのユーザーが任意のオブジェクトの1次グループでない場合は、JJADAMSという名前のユーザー・プロファイルをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPF22BF

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF22B3

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF22C1

NEWOWNとUSRPRFパラメーターを同じにすることはできない。

CPF220A

新しい所有者&1にユーザーIDがない。

CPF220B

新しい1次グループ&1にグループIDがない。

CPF220C

所有者と1次グループを同じにすることはできない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF221A

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF221E

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF221F

PGPOPTパラメーターとUSRPRFパラメーターを同じにすることはできない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2215

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF2229

ユーザー・プロファイルの削除は認可されていない。

CPF2238

ユーザー・プロファイルへのアクセス・パスに損傷がある。

CPF2258

グループ・プロファイル&1は削除されなかった。

CPF2263

&1ユーザー・プロファイルからグループ情報が除去された。

CPF2265

ユーザー・プロファイル&1は削除されなかった。

STATUS メッセージ*CPI2236**

オブジェクト所有権の削除中。

上

ユーザー待ち行列削除 (DLTUSRQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー待ち行列削除(DLTUSRQ)コマンドは、システムからユーザー待ち行列を削除します。このコマンドを入力するユーザーは、削除されるユーザー待ち行列に対する*OBJEXIST権限、およびそのユーザー待ち行列が入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限を持っていないければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRQ	ユーザー待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー待ち行列	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ユーザー待ち行列 (USRQ)

削除するユーザー待ち行列の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPLIB     #RPLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー待ち行列の値は次の通りです。

ユーザー待ち行列名

削除するユーザー待ち行列の名前を指定してください。

総称*ユーザー待ち行列名

ユーザー待ち行列の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる名前のすべてのユーザー待ち行列、およびユーザーが権限をもっているユーザー待ち行列が表示されます。

上

例

```
DLTUSRQ  USRQ(MYBEST/USRQSAMPLE)
```

このコマンドは、MYBESTという名前のライブラリーのUSRQSAMPLEという名前のユーザー待ち行列をシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

ユーザー・スペースの削除 (DLTUSRSPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・スペースの削除(DLTUSRSPC)コマンドは、システムからユーザー・スペースを削除します。このコマンドを入力するユーザーは、削除されるユーザー・スペースに対する*OBJEXIST権限、およびこのユーザー・スペースが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限を持っていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRSPC	ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー・スペース	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

ユーザー・スペース (USRSPC)

削除されるユーザー・スペースの名前およびライブラリーを指定します。特定のユーザー・スペースまたは総称ユーザー・スペースを指定することができます。いずれのタイプの場合も、任意にライブラリーによって修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQRDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQRPROC   QUSRBRM   QUSRPMYSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー・スペースの値は次の通りです。

ユーザー・スペース名

削除するユーザー・スペースの名前を指定してください。

総称*ユーザー・スペース名

ユーザー・スペースの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。総称名を指定した場合には、総称名で始まる名前のすべてのユーザー・スペース、およびユーザーが権限をもっているユーザー・スペースが表示されます。

上

例

```
DLTUSRSPC  USRSPC(MYBEST/USRSPCTEST)
```

このコマンドは、MYBESTという名前のライブラリーのUSRSPCTESTという名前のユーザー・スペースをシステムから削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

上

ユーザー・トレースの削除 (DLTUSRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・トレース・バッファ削除(DLTUSRTRC)コマンドは、ユーザー・トレース・バッファおよび指定のジョブのレコードを削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションル, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, *ALL, *CURRENT	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, *ALL, *CURRENT	
	修飾子 3: 番号	000000-999999, *ALL	

上

ジョブ名 (JOB)

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* コマンドを実行しているジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

指定できるジョブ名修飾子の値は、次の通りです。

*ALL 指定されたユーザー名およびジョブ番号と一致するすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

*CURRENT

現行ジョブ名をもつすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

ジョブ名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの名前を指定してください。

総称*ジョブ名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

指定できるユーザー名修飾子の値は、次の通りです。

*ALL 指定されたジョブ名およびジョブ番号と一致するすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

***CURRENT**

現行ジョブのユーザー名をもつすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

ユーザー名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブのユーザーの名前を指定してください。

総称*ユーザー名

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

指定できるジョブ番号修飾子の値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたジョブ名およびユーザー名と一致するすべてのジョブのユーザー・トレース・バッファが削除されます。

ジョブ番号

ユーザー・トレース・バッファを削除するジョブの6桁の番号を指定してください。

上

例

例1:現行ジョブのユーザー・トレース・バッファの削除

```
DLTUSRTRC
```

このコマンドは、現行ジョブのユーザー・トレース・バッファを削除します。

例2:特定ユーザーのユーザー・トレース・バッファの削除

```
DLTUSRTRC JOB(*ALL/JSMITH/*ALL)
```

このコマンドは、ユーザー名JSMITHをもつジョブのすべてのユーザー・トレース・バッファを削除します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

```
CPFA98D
```

ジョブ&3/&2/&1と関連したユーザー・トレース・バッファを削除できなかった。

上

妥当性検査リストの削除 (DLTVLDDL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

妥当性検査リスト削除(DLTVLDDL)コマンドは、指定された妥当性検査リストをライブラリーから削除します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VLDDL	妥当性検査リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	総称名, 名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

上

妥当性検査リスト (VLDDL)

削除する妥当性検査リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 妥当性検査リスト

総称名 削除する妥当性検査リストの総称名を指定してください。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。例えば, ABC* など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は, ユーザーが権限をもち, 総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称(接頭部)名にアスタリスクが入っていないと, システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 削除する妥当性検査リストの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

ライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には, QGPLライブラリーが使用されます。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ジョブのライブラリー・リストのライブラリーだけでなく、ユーザー定義のすべてのライブラリーおよびQGPLライブラリーを含め、システム・ライブラリー以外のすべてのライブラリーが検索されます。名前が英字のQで始まるライブラリー(QGPLライブラリーを除く)は含まれません。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

DLTVLDL VLDL(WEBLIB/WEBUSRS)

このコマンドは、ユーザーがWEBUSRSという名前の妥当性検査リストおよびライブラリーに対して正しい権限をもっている場合は、その妥当性検査リストを削除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2117

タイプ*&3の&4個のオブジェクトが削除され、&5個のオブジェクトが削除されなかった。

CPF2125

オブジェクトは削除されなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

上

WINDOWSサーバーの削除 (DLTWNTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

WINDOWSサーバーの削除 (DLTWNTSVR)コマンドは、指定されたWindowsネットワーク・サーバー記述およびWINDOWSサーバーの導入 (INSWNTSVR)コマンドによって作成された関連オブジェクトを削除します。これらのオブジェクトにはネットワーク・サーバー記述、回線記述、TCP/IPインターフェース、サーバー記憶スペース、およびシステム作成のネットワーク・サーバー記憶スペースがあります。このコマンドを出すには、ネットワーク・サーバーをオフラインに変更しなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)

削除するネットワーク・サーバーの名前を指定します。ネットワーク・サーバー名は最大8文字とすることができます。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

不明

上

WSCSTの削除 (DLTWCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト削除(DLTWCST)コマンドによって、ユーザーはワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを削除することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2:	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

削除するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

オブジェクト名

削除されるオブジェクトの名前を指定します。

上

例

DLTWSCST WSCST(MYLIB/PERSONNEL)

このコマンドは、名前PERSONNELのワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを削除します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ジョブ延期 (DLYJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ延期 (DLYJOB)コマンドは、指定された秒数だけ、あるいは指定された時刻になるまで現行ジョブを待機させてから、実行を再開します。

注: ジョブ延期時間 (DLY)パラメーターかジョブ再開時刻 (RSMTIME)パラメーターのどちらかに値を指定しなければなりません、両方に指定する必要はありません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLY	ジョブ延期時間	1-999999	オプション、定位置 1
RSMTIME	ジョブ再開時刻	時刻	オプション、定位置 2

上

ジョブ延期時間 (DLY)

ジョブを遅延する秒数を指定します。DLYキーワードでは、最大値の999999秒（約11日と14時間）を使用することができます。ジョブ再開時刻 (RSMTIME)パラメーターが指定されない場合には、これは必須パラメーターです。

1から999999

ジョブを遅延する秒数を指定します。

上

ジョブ再開時刻 (RSMTIME)

ジョブの実行を再開する時刻を指定します。再開時刻を指定する時には、指定した時刻によって日付が暗示されます。再開時刻が現行時刻よりも後である場合には、日付は現行日付と見なされます。再開時刻が現行時刻よりも前である場合には、翌日の日付と見なされます（遅延は翌日のこの時刻まで続きます）。ジョブ延期時間 (DLY)パラメーターが指定されない場合には、これは必須パラメーターです。

時刻 ジョブの実行を再開する時刻を指定します。

上

例

例1:ジョブの15秒の遅延

```
DLYJOB DLY(15)
```

このコマンドは、ジョブの実行を15秒遅延させます。

例2:真夜中までのジョブの遅延

```
DLYJOB RSMTIME('000000')
```

このコマンドは、ジョブの実行を真夜中まで遅延させます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

遅延SRVAGT問題報告書 (DLYSRVAGTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザーは、遅延SRVAGT問題報告書 (DLYSRVAGTP)コマンドを使用して、特定のシステム参照コードの報告を通常の営業時間まで遅らせるかどうかを指定できます。サービス・エージェントしきい値テーブルの中で、これらのシステム参照コードのグループ値はBです。これらは、GO SERVICEメインメニューのしきい値テーブルの処理のオプションを使用して、表示または変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ENABLE	使用可能にする	*YES, *NO	オプション、定位置 1
RPTDAY	報告日	単一値: *ALL その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション、定位置 2
RPTSTRTIME	報告開始時刻	時刻, <u>080000</u>	オプション、定位置 3
RPTENDTIME	報告終了時刻	時刻, <u>170000</u>	オプション、定位置 4

上

使用可能にする (ENABLE)

問題報告の遅延が有効にされるかどうかを指定します。

***YES** グループBシステム参照コードは、指定された報告日の報告開始時刻から報告終了時刻まで（通常の営業時間）にのみ報告されます。指定された日および時間の範囲外でシステム参照コードが発生した場合、報告の日および時間になるまでエラーは保留されます。

***NO** 遅延機能を使用不可に設定します。エラーは発生した時点で報告されます。

これは必須パラメーターです。

上

報告日 (RPTDAY)

グループBシステム参照コードが報告される日。指定されていない日にシステム参照コードが発生した場合、報告日になるまでエラーは保留されます。

***SUN** 問題は日曜日に報告されます。

- *MON 問題は月曜日に報告されます。
- *TUE 問題は火曜日に報告されます。
- *WED 問題は水曜日に報告されます。
- *THU 問題は木曜日に報告されます。
- *FRI 問題は金曜日に報告されます。
- *SAT 問題は土曜日に報告されます。
- *ALL 問題はすべての日に報告されます。

省略時値は*MON *TUE *WED *THU *FRIです。

ENABLE(*YES)を指定した場合は、これは必須パラメーターです。

上

報告開始時刻 (RPTSTRTIME)

ジョブ時刻形式で指定された、通常営業時間の開始時間を定義する時刻。グループBシステム参照コードは、報告開始時刻から報告終了時刻までの間にIBMに報告されます。

省略時値は080000です。

注: 報告開始時刻と報告終了時刻は、両方とも午前0時より前か後でなければなりません。

ENABLE(*YES)を指定した場合は、これは必須パラメーターです。

上

報告終了時刻 (RPTENDTIME)

ジョブ時刻形式で指定された、通常営業時間の終了時間を定義する時刻。グループBシステム参照コードは、報告開始時刻から報告終了時刻までの間にIBMに報告されます。

省略時値は170000です。

注: 報告開始時刻と報告終了時刻は、両方とも午前0時より前か後でなければなりません。

ENABLE(*YES)を指定した場合は、これは必須パラメーターです。

上

例

```
DLYSRVAGTP ENABLE(*YES) RPTDAY(*MON *TUE *WED *THU *FRI)
RPTSTRTIME(080000) RPTENDTIME(170000)
```

このコマンドは、月曜日から金曜日までの080000と170000の間のみグループBシステム参照コードが報告されるようにします。それ以外の日または時間に発生したグループBシステム参照コードの報告は、次の報告日および時間になるまで遅延されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

オブジェクト・ダンプ (DMP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ダンプ(DMP)コマンドは、QPSRVDMPという名前のスプール印刷装置ファイルに対する指定された統合ファイル・システム・オブジェクトの内容または属性あるいはその両方をダンプします。内容または属性あるいはその両方をダンプできるかどうかは、オブジェクト・タイプによります。任意の統合ファイル・システム・オブジェクトをダンプすることができますが、このコマンドで一度に指定できるオブジェクトは1つだけです。

制約事項:

- そのオブジェクトを含むディレクトリーに対して読み取りおよび実行(*RX)権限が必要で、オブジェクトに対して読み取り(*R)が必要です。オブジェクトがQSYS.LIBファイル・システムにある場合には、ユーザーはオブジェクトに対する使用(*USE)権限と、ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。内部文書ライブラリー・オブジェクトをダンプするには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
- ダンプ(DMP)コマンドではパス名にディレクトリーのパターンを指定することはできず、オブジェクト名を指定するだけです。オブジェクト・リンク処理(WRKLNK)コマンドを呼び出して、ディレクトリー中のオブジェクトを参照することができます。
- パス名の指定の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの第2章を参照してください。オブジェクト名パターンの詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。
- すべてのファイル・システムがDMPコマンドをサポートするわけではありません。次のローカル・ファイル・システムのリストがサポートされます。
 - ルート・ファイル・システム
 - QOPENSYSファイル・システム
 - QSYS.LIBファイル・システム
 - QDLSファイル・システム
 - ユーザー定義ファイル・システム

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名, *_	オプション, 定位置 1

上

オブジェクト (OBJ)

ダンプするオブジェクトのパス名を指定します。

* 対話式ジョブから呼び出した場合は、「オブジェクト選択」メニューが表示されて、そのジョブの
- 現行ディレクトリー中のすべてのディレクトリーおよびファイルがリストされます。この画面から、
ダンプするオブジェクトを選択することができます。DMPコマンドの実行の前に、現行ディレ
クトリーの変更(CHGCURDIRまたはCDまたはCHDIR)コマンドを使用して、現行ディレクトリーを
変更することができます。

パス名 ダンプするオブジェクトのパス名を指定します。パターンがこのパラメーターで指定され、複数の
オブジェクトがパターンと一致する場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択する
ことができます。これがバッチ・ジョブの場合には、コマンドはエラー・メッセージで失敗しま
す。

上

例

例1:ストリーム・ファイル内容をダンプする

```
DMP OBJ('/USER/TEST.STMF')
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル/USER/TEST.STMFの内容をダンプします。ダンプはプリンター出力
ファイルQPSRVDMPにスプールされます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

上

CLプログラム・ダンプ (DMPCLPGM)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLプログラム・ダンプ(DMPCLPGM)コマンドは、変数（コマンドが処理されるCLプログラムの中で使用されているもの）、およびプログラムのライセンス・上のすべてのメッセージをスプール印刷装置ファイルにダンプします(QPPGMDMP)。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

```
PGM
DCL . . .
DCL . . .
MONMSG MSGID(CPF9999) EXEC(GOTO DUMP)
:
RETURN
DUMP: DMPCLPGM
ENDPGM
```

この制御言語プログラムまたはILE CLプロシージャは、機能チェック・メッセージCPF9999をモニターします。プロシージャ内で機能チェックが発生すると、DUMPというラベルにあるコマンドに制御権が渡されます。そうすると、プログラムのメッセージ待ち行列のダンプが取られ、プロシージャの変数が印刷されます。このダンプを使用して、機能チェックの原因を突き止めることができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0570

&2のCLプログラム&1をダンプすることができない。

上

クラスター・トレースのダンプ (DMPCLUTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター・トレース・ダンプ(DMPCLUTRC)コマンドは、問題分析用に使用されます。これはクラスター関連トレースおよびデバッグ情報をファイルにダンプします。1つ以上のクラスター・ノードで、1つ以上のクラスター資源グループについての情報が論理的にダンプされます。ダンプされる各クラスター資源グループにはファイル中にファイル・メンバーがあります。ファイル・メンバーの名前はクラスター資源グループの名前です。ダンプされる情報は特定のクラスター資源グループに依存します。ダンプされる情報の量はダンプ・レベルによって決定されます。ダンプが出力されるのは、指定されたクラスター資源グループの活動クラスター資源サービス・ジョブがあるノードだけです。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、ユーザーにはサービス(*SERVICE)特殊権限が必要であり、また、ISERIES ナビゲーターのアプリケーション管理サポートによりオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に対して許可されていなければなりません。
2. また、このコマンドでダンプするクラスター資源グループ・オブジェクトのすべてに対する使用(*USE)権限も必要です。
3. このコマンドがリモート側で機能する（このコマンドを出しているノード以外の任意のノードで機能する）ためには、クラスターがバージョン3以上になっていなければなりません。
4. クラスター資源サービスは、このコマンドの発行元のノードで、活動状態または開始の進行中でなければなりません。
5. このコマンドに関係できるのは、所要クラスター資源グループのジョブがあるノードだけです。
6. このコマンドが成功したかどうかを判別するには、影響をうけたノードでダンプ・ファイルを調べてください。ファイルがそこにはない場合は、ジョブ・ログでメッセージに関連したクラスター・ジョブを調べてください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前, *ALL	必須, 定位置 2
NODE	ノード識別コード	名前, *ALL, *LOCAL	オプション
LEVEL	レベル	*BASIC, *ERROR, *INFO, *VERBOSE	オプション
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前, *NODE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QGPL, *CURLIB	
OVERWRITE	上書きオプション	*YES, *NO	オプション

クラスター (CLUSTER)

情報をダンプまたは印刷する対象のクラスター名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

クラスター資源グループ (CRG)

ダンプするクラスター資源グループを指定します。

***ALL** 全グループ (予約名QCSTCTLおよびQCSTCRGMを含む)。

名前 ダンプするクラスター資源グループの名前を指定してください。また、クラスター制御およびクラスター資源グループの予約名 (それぞれ、QCSTCTLおよびQCSTCRGM)を指定することもできます。

これは必須パラメーターです。

ノードID (NODE)

ダンプするクラスター・ノードを指定します。

***LOCAL**

ローカル・ノード。すなわち、このコマンドを出す対象のノード。

***ALL** クラスター内の全活動ノード。

名前 クラスター・ノードの名前を指定します。

レベル (LEVEL)

ダンプ・レベルを指定します。各レベルの情報の量と種類はダンプしようとする特定のクラスター資源グループに依存します。

***BASIC**

ダンプ情報の基本レベルを指定します。これは、フライト・レコーダー情報のように連続的に保守されている情報をダンプします。

***ERROR**

ダンプ情報のエラー・レベルを指定します。これはエラー情報をダンプし、*BASICレベル情報を含みます。

INFO** ダンプ情報の情報レベルを指定します。これは、完了情報と警告情報をダンプし、ERROR**レベル情報を含みます。

***VERBOSE**

ダンプ情報の冗長レベルを指定します。これは、詳細トレース情報およびデバッグ情報をダンプし、***INFO**レベルを含みます。

上

物理ファイル (FILE)

ダンプの書き込み先の物理ファイルを指定します。このファイルは、**OVERWRITE**パラメーターに従って、ダンプが要求されている各ノード上に書き込まれます。これと同一のライブラリー名が全ノードで使用されます。ファイル名が***NODE**以外として指定されている場合は、このファイル名は全ノード上でも同じになります。

修飾子1: 物理ファイル

***NODE**

クラスター・ノードIDはファイル名として使用されます。例えば、クラスター・ノードIDが**NODE1**である場合は、このファイル名は**NODE1**です。複数のノードをダンプ中の場合は、各ノードは異なるファイル名をもつこととなります。

名前 物理ファイルの名前を指定してください。この名前は全ノードで使用されます。

修飾子2: ライブラリー

QGPL このファイルはライブラリー**QGPL**内に作成されます。

***CURLIB**

このコマンドを起動中のジョブの現行ライブラリーが使用されます。このライブラリーはダンプ要求が任意の他のノードに送信される前に判別されます。

名前 物理ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。これと同一のライブラリー名が指定された全ノードで使用されます。ダンプはライブラリーが指定されていないどのノードでも行われません。

上

上書きオプション (OVERWRITE)

指定されたファイルに上書きするかどうかを指定します。このファイルが存在している場合は、削除して再作成されます。このパラメーターはノードごとに検査されます。***NO**が複数のノードと一緒に指定されている場合は、ダンプが行われるのはこのファイルがないノードだけです。成功、失敗、またはノード上のファイルに上書きできないことを示す**CPDDB07**メッセージが、ダンプに関係しているクラスター資源サービスのすべてのジョブ・ログに送られます。

***YES** 指定されたファイルには上書きされます。

***NO** 指定されたファイルには上書きされません。このファイルが存在している場合は、指定されたノードでダンプは行われません。

上

例

例1: 1つのノード上の1つのクラスター資源グループのダンプ

```
DMPCLUTRC CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1) NODE(NODE1)
```

このコマンドは、クラスターEXAMPLE中のノードNODE1のクラスター資源グループCRG1をダンプします。NODE1では、QGPL/NODE1の名前のファイルが作成されます。これには、CRG1の名前の1つのメンバーがあります。

例2: すべてのノード上の1つのクラスター資源グループのダンプ

```
DMPCLUTRC CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1) NODE(*ALL)
          LEVEL(*ERROR) FILE(QGPL/*NODE) OVERWRITE(*NO)
```

ファイルが存在しない場合に、このコマンドは、すべてのクラスター・ノード上のクラスター資源グループCRG1からエラー情報をダンプします。各ノードは、ファイルがすでに存在するかを個別に検査します。ファイルの名前はQGPL/ノードIDです。

例3: すべてのノード上のすべてのクラスター資源グループのダンプ

```
DMPCLUTRC CLUSTER(EXAMPLE) CRG(*ALL) NODE(*ALL)
          LEVEL(*INFO) FILE(MYLIB/DUMP) OVERWRITE(*YES)
```

このコマンドは、すべてのノード上のすべてのクラスター資源グループをダンプします。ライブラリー名は、このコマンドを起動したジョブによって判別されます。そのライブラリー名がMYLIBの場合には、各ノードにはMYLIB/DUMPの名前ファイルがあり、QCSTCTLおよびQCSTCRGM用のメンバーの他に、ダンプされたグループ当たり1つのファイル・メンバーがあります。ファイルが存在し、ダンプ用に再作成された場合には、それは破棄されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF98A2

&1コマンドまたはAPIは認可されていない。

CPFBB02

クラスター&1は存在していない。

CPFBB09

クラスター・ノード&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB0F

クラスター資源グループ&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB70

要求&1は現行のクラスター・バージョンと互換性がありません。

CPFBBA0

クラスター資源グループ&2のクラスター・ノード&1が応答していません。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan